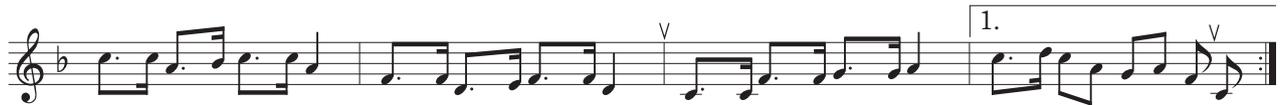


# 岐阜県立岐阜高等学校 校歌

作詞 松平 静  
作曲 伊藤栄治



せん じんのたけ きんかざん ひゃくりのみず な がら がわ  
(が) かいのなみ あらくとも きぼうのきし と おく とも



かようのけんじ ここにうまれて こっかのために あげくれまなぶが  
かようのけんじ こころおおしく ひやくせつふとう



つとめてやまずふ る へ ふ る へ ほこるさいこの



れ きしある わがこうこの ほまれをば あげよも



ろ びとも ろ ともー に

千仞の嶽	金華山
百里の水	長良川
華陽の健児	ここに生まれて
国家の為に	明け暮れ学ぶ
学海の波	荒くとも
希望の岸	遠くとも
華陽の健児	心雄々しく
百折不撓	つとめてやまず
奮へ 奮へ	
誇る最古の	歴史ある
我が高校の	誉れをば
誉げよ諸人	諸共に

# 岐高女校歌

一、ああすめらみ国 榮ゆるみ代に  
われら起女 生れあいたる章  
胸の鏡と 日々にあふく  
教への道の 勅語

二、見よ稲葉山の 姿は高し  
われら起女 高く心を保たむ  
国の御為に 人の為に  
力のかきり つくさはや

三、きけ長良川の 瀬の音は清し  
われら起女 清く心とみかかむ  
ほけみいそしみ 探かたく  
明るき微笑 うつくしく

# 姫小松

一、学びの庭の 姫小松  
千代の襟に たぐへつ、  
植ゑしその日のめぐりきぬ  
いせや 祝わん 諸共に

二、恵みのつゆに うらおいし  
みとりゆかしき 姫小松  
いよよますますしげへし  
千代に八十年代にせかえなん

藍水くらぶ

高木 あい筆

## 姫小松(創立記念日の歌)

## 岐高女 校歌

まなび-の にわの ひめこまつ ちよのみ さをに  
めぐみ-の つゆに うるほひて みどりゆかしき

たぐへつ つ う-えし そのひの めぐり-きぬ  
ひめこまつ い-よよ ますますしげへし

いさや-い わはん もろとも に  
ちよに-や ちよに さかえなん

あ あ す めらみく に さ か ゆ るみよ に わ  
み よ い なばやま の す が た はたか し わ  
き け な がらがわ の せ の と はきよ し わ

れ らを と めう まれあひ たるさ いは-い むねの  
れ らを と めた かくこころ を た もた-む く にの  
れ らを と めき よくこころ を み が-かむ はげみ

か がみと ひびに あ-ふ-くおしえ のみ ちのみ ことのり  
み ために ひとの た-め-にちから のか ぎりつ くさばや  
い そしみ みさお か-た-くあかる きえま ひう つくしく

# もくじ

- 1 岐阜県立岐阜高等学校 校歌
- 2 岐高女校歌 姫小松（創立記念日の歌）
- 4 同窓会にできること 同窓会会長 水谷邦照
- 5 「同窓会総会」をお祝いして 岐阜県立岐阜高等学校 校長 折戸敏仁
- 6 ♪現在過去 未来♪ 運営委員会 委員長 村瀬幸雄
- 7 総会・懇親会 式次第

## 議案・規約

- 8 第1号議案 平成29年度事業報告／第4号議案 平成30年度事業計画（案）
- 9 第2号議案 平成29年度岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会決算報告
- 10 第3号議案 岐阜県立岐阜高等学校同窓会役員（案）
- 11 第5号議案 平成30年度岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会予算（案）
- 12 平成29年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会 決算書
- 13 平成30年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会 予算書
- 14 岐阜県立岐阜高等学校同窓会規約

## Column コラボ演奏

### 15 吹奏楽と三味線のための「津軽じょんがら節」

寄稿

### 16 恩師からの便り

渡邊利昭先生／大矢邦彦先生／江崎正徳先生／宮部敏男先生  
坂井俊郎先生／河口澄子先生／丹羽章先生／園部栄子先生

## Column 当番幹事学年の3年間の担任

### 26 当番幹事学年がお世話になった3年間のクラス担任

## 特集① 座談会

### 27 岐阜から世界へ

世界へ飛び出した、昭和50年卒業生

## 特集② 寄稿集

### 38 親から子へ・先輩から後輩へ・人から社会へ

子育ての時期が真つ盛り、あるいは終わりに近づきつつある昭和60年卒業生が、我が子の親として、現役岐高生の応援者として、また社会を様々な分野で支える人として、多くの人へのエールを送るという主旨で寄稿しました。

## 特集③ 座談会

### 48 音楽は時空を越えて

吹奏楽部と津軽三味線「里奏会」とのコラボ演奏前に心を通わせる座談会でした。

### 54 岐高だより

## Column 同窓会だより

### 57 同窓会から岐高生への贈り物

平成29年度 大学合格者数

平成30年度 岐阜県立岐阜高校同窓会総会運営委員会名簿

応援団団歌／凱旋歌

### 61 会報協賛広告

平成30年度 岐阜県立岐阜高校同窓会総会出席者名簿

150 広告・協賛の御礼・編集後記





## 同窓会にできること

岐阜県立岐阜高等学校同窓会 会長 水谷 邦照

平成三〇年度の岐阜高等学校同窓会総会が、多数の同窓生の皆様にご出席いただき盛大に開催されますことを、皆様とともに喜びたいと存じます。

さて、岐阜高校では、生徒諸君が日々の勉強と部活動などに全力を傾け、成果を挙げています。

同窓会では、母校における教育諸活動に貢献することを考え、学校側からの要望も考慮して、昨年度は二つの協力をさせていただきました。体育大会優勝旗の更新と基調講演会を同窓会の主催にしたことです。こうしたことは、現役の生徒諸君に同窓会の存在をより身近に感じていただくことにつながるでしょうし、文武両道の校風にもかなった支援のしかただと思っております。

今の日本では、若者世代の割合が減り、社会の構造や活気に影響していると考えられます。今後も高校

生年齢の人口は減り続け、近い将来には学校の有り様さえも変容しようとしています。

しかし、そうした状況だからこそ、工夫と変革によって新しいものを創造することが大切です。選挙権年齢が引き下げられたことも、社会への参画意識が早くから求められているからで、若者たちへの社会の期待は大きいのです。

同窓会は、後輩諸君がその若い力を十分に養い、社会に雄飛して立派なリーダーとなることを心から願ひ、これからも応援し続けます。

結びに、総会並びに懇親会の準備に携わられた昭和五〇年、昭和六〇年、平成七年卒業の運営委員の皆様には、格別のご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

また、本日までご参会の皆様には、誠にありがとうございます。



(上) サッカー部/インターハイ予選・準決勝(対岐阜工高)(長良川球技メドウ, 平成29年5月27日)  
(左) 自然科学部生物班/JSEC2017科学技術振興機構賞受賞(日本科学未来館, 平成29年12月10日)



## 「同窓会総会」をお祝いして

岐阜県立岐阜高等学校 校長 折戸 敏仁

平成三〇年度の岐阜高校同窓会総会が水谷邦照会長様をはじめ役員・運営委員の皆様方の御尽力により、多数の会員の皆様方の御出席を得て盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、平素より本校の教育活動に対し、格別の御理解と御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

私こと、この四月の人事異動で岐阜高校にお世話になることになりました。大変微力ではありますが、岐阜高校の益々の充実発展のために一杯努めさせていただきますので、御支援、御協力をよろしく願います。

さて、御存知のように、本校の生徒は「百折不撓・自強不息」の校訓のもと、輝かしい歴史と伝統を受け継ぎながら、文武両道をモットーに日々学習や部活動にと励んでおります。〃文〃の象徴である今春の進学結果は会報の紙面でお知らせさせていただきましたとおりでありますが、〃武〃の

方でも、限られた時間を有効活用して県内外で活躍しました。

その一端を御紹介させていただきますと、陸上競技部では女子が一五〇〇杯、ソフトテニス部では男子団体、剣道部では女子個人で東海高校総体に出場しました。

また、全国高等学校総合文化祭に美術部、書道部、音楽部、文芸部、自然科学部、囲碁・将棋部女子個人が参加し、自然科学部が奨励賞を受賞しました。他にも、自然科学部・生物班が「バイオサミットin鶴岡」で環境大臣賞を、吹奏楽部が「東海吹奏楽コンクール」で銀賞を、家庭クラブが「全国高校生ホームプロジェクトコンクール」でFHJ賞(全国三位)をそれぞれ受賞し、囲碁・将棋部が「全国高校将棋新人大会」に、クイズ研究部が「全国高校生金融経済クイズ選手権」(エコノミクス甲子園全国大会)にそれぞれ出場しました。

さらに、科学技術振興機構主催

の四七都道府県から各一校ずつが選抜されて競い合う「科学の甲子園全国大会」に二年生の選抜メンバーが岐阜県代表として七年連続で出場し、総合第一〇位に入賞しました。また、国際連合大学で開催された「全日本高校模擬国連大会」に二年生がイギリス大使役として参加し、「ジェンダー平等」をテーマに議論しました。

このように、岐高生は皆様の期待に応えるべく様々な分野で大活躍をしています。今後とも、本校の教育活動に絶大なる御支援と御協力を重ねてお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年度の総会のお世話をいただきます村瀬幸雄運営委員長をはじめ、当番幹事の昭和五〇年、六〇年、平成七年卒業の皆様方の御尽力に感謝するとともに、併せて会員の皆様方の御健康と御多幸、そして同窓会の益々の御発展を心から祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。



## ♪ 現在 過去 未来 ♪

平成30年度同窓会総会運営委員会 委員長 村瀬 幸雄

本日は、ご来賓、恩師の皆様をはじめ、大勢の同窓生の皆様にご参加を賜り、誠にありがとうございます。本年の同窓会総会運営幹事当番年である昭和五〇年、昭和六〇年および平成七年の卒業生を代表して心より御礼申し上げます。また、本会報へ広告協賛をいただきました関係各位、個人にてご協賛をいただきました皆様にも深く感謝申し上げます。

さて、本年度の同窓会総会では、現役の岐阜高校吹奏楽部の皆さんと同窓会会員との合同演奏を企画いたしました。また、本会報には、岐阜高校を卒業し、日本や世界で活躍している同窓生の皆さんの座談会の様子を掲載させていただきました。座談会は、新しくなった岐阜高校の会議室とアメリカとを

繋ぐテレビ対談にて行われました。休日にもかかわらずご協力をいただきました岐阜高校の先生方に御礼申し上げます。

今回の同窓会総会の運営幹事に年代差こそありますが、皆、岐阜を中心に生活基盤を築いている地元のメンバーが中心です。

仕事の関係、家族の関係で日中に散らばった同窓生は大勢いらっしゃると思いますが、ふるさとである岐阜に帰るきっかけをきつと待っている“私たち幹事は、そう確信しながら”高校時代の仲間にあつてみたい”と想う背中を押しあげられるよう、今回の同窓会の打ち合わせを行ってまいりました。

私たち幹事も、打ち合わせを重ねるたび、そして懐かしい名前が

出るたびに、まるでセピア色の写真がカラー写真へと変わるように、一つひとつの思い出が鮮やかによみがえり、なんとも表現できない感動をもらいました。

そんな折に、ふと昭和五〇年代に流行した曲が頭をよぎりました。

♪ 現在、過去、未来

あの人（同級生）に逢ったなら、私（幹事）はいつまでも待つてると誰か伝えて…

運営幹事の皆さんとともに、本日の同窓会総会が、参加された皆様にとって懐かしい再会や新しい出会い、そして楽しいひと時となることを祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

平成30年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会  
総会・懇親会 式次第

平成30年6月10日(日)  
会場：岐阜グランドホテル

1. 総会 (11:00 ~ 11:45)

開会の辞

黙祷

同窓会会長挨拶 会 長 水谷 邦照

学校長挨拶 岐阜高等学校 校長 折戸 敏仁

議案審議

第1号議案 平成29年度事業報告

第2号議案 平成29年度決算報告ならびに監査報告

第3号議案 役員改選

第4号議案 平成30年度事業計画(案)

第5号議案 平成30年度予算(案)

第6号議案 その他

退任役員へ感謝状贈呈

祝辞 名 誉 顧 問 古田 肇

閉会の辞

2. コラボ演奏「吹奏楽と三味線のための『津軽じょんがら節』」(11:45 ~ 12:05)

演奏者：岐阜高校吹奏楽部＋「里奏会」会主 宮崎代里子



岐阜高校吹奏楽部は現在1年次生、2年生合わせて48名の部員が所属し、より良い音楽を求めて活動しています。学業との両立に努めながら、限られた練習時間の中で自分にできることを常に考え、1分1秒を大切に作る姿勢で取り組んでいます。努力の甲斐あって、昨年度は夏の吹奏楽コンクールで東海大会に出場し、岐阜県勢で唯一、銀賞を受賞しました。毎年3月に不二羽鳥文化センターで行なっている定期演奏会では、生徒が中心になって企画を考え、吹奏楽部の活動の集大成となる演奏をすることができました。定期演奏会では生徒会と連携し、東日本大震災の義援金募金活動を毎年行っています。

(部長 野崎友花)

※津軽三味線と里奏会に関する記事を15ページに掲載。  
※座談会の記録を48～53ページに掲載。

3. 懇親会 (12:20 ~ 14:00)

開会のことば 平成30年度同窓会総会運営委員会 委員長 村瀬 幸雄

乾杯 在京(首都圏)岐阜高校同窓会 会長 尾関 良平

祝電披露

平成31年度同窓会総会運営委員会 委員長紹介 神谷眞弓子(昭和51年卒)

校歌斉唱

閉会のことば 平成30年度同窓会総会運営委員会 副委員長 松波 英寿

以上

# 議 事

## <第1号議案>

### 平成29年度事業報告

第1回役員会	4月25日	岐阜高校
同窓会総会	6月11日	岐阜グランドホテル
第2回役員会	9月12日	岐阜高校
第3回役員会	2月6日	岐阜高校

#### << 参考 >>

- ・平成29年度 在京(首都圏)同窓会総会  
平成29年6月25日 東京ドームホテル

## <第4号議案>

### 平成30年度事業計画(案)

第1回役員会	4月26日	岐阜高校
同窓会総会	6月10日	岐阜グランドホテル
第2回役員会	9月11日	岐阜高校
第3回役員会	2月5日	岐阜高校

#### << 参考 >>

- ・平成30年度 在京(首都圏)同窓会総会  
平成30年7月1日 東京ドームホテル

## 第2号議案 平成29年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会 決算報告

【一般会計】  
収入の部

自 平成29年 4月 1日  
至 平成30年 3月31日

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	3,198,608	3,198,608	
同窓会入会費	1,212,000	1,203,000	@ 3,000 × 401名
受取利息	21	24	普通預金利息
雑収入	0	0	
計	4,410,629	4,401,632	

支出の部

役員会費	50,000	40,844	3回
慶弔費	50,000	0	
祝儀、餞別	200,000	76,874	在京同窓会祝儀、退任役員感謝状関連費等
総会運営費	300,000	300,000	平成30年度総会運営委員会補助金
旅費	100,000	76,250	在京同窓会出席者旅費
通信費	10,000	7,535	資料郵送代金
ホームページ関連経費	200,000	119,556	管理料、ドメイン利用料、メンテナンス料等
手数料	10,000	4,752	振込手数料
校史資料室整備費	100,000	9,936	卒業アルバム代金
母校支援活動費	300,000	117,180	体育大会優勝旗、優勝旗用三脚費
雑費	0	1,533	同窓会入会式採用紙代金
次年度繰越金	3,090,629	3,647,172	
計	4,410,629	4,401,632	

【特別会計】  
収入の部

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	3,823,356	3,823,356	
十六銀行株式配当金	482,678	553,170	株式保有数8,142株
受取利息	31	34	普通預金利息
計	4,306,065	4,376,560	

支出の部

次年度繰越金	4,306,065	4,376,560	
計	4,306,065	4,376,560	

【総会特別会計】  
収入の部

科 目	予 算	決 算	備 考
前年度繰越金	12,836,959	12,836,959	
平成29年度総会運営費繰入金	1,200,000	1,200,000	運営費貸出金の返済金
平成29年度同窓会総会余剰金	-	2,594,197	平成29年9月受け入れ
受取利息	93	118	
計	14,037,052	16,631,274	

支出の部

平成30年度総会運営費繰出金	1,200,000	1,200,000	運営費一時貸出金
振込手数料	540	540	
次年度繰越金	12,836,512	15,430,734	
計	14,037,052	16,631,274	

上記の通りご報告申し上げます。

平成30年3月31日

平成29年度岐阜高等学校同窓会

会 計 杉山 正裕

会 計 杉山 文康



上記について関係書類を監査の結果、適正に処理されていたことを報告いたします。

平成30年3月31日

平成29年度岐阜高等学校同窓会

監 査 伊在井みどり

監 査 佐伯 淑子



＜第3号議案＞  
岐阜県立岐阜高等学校同窓会役員(案)

名誉顧問	古田 肇 (昭和41年卒)	
顧問	杉山 幹夫 (昭和20年卒)	野々垣 孝 (昭和31年卒)
	森川 幸江 (昭和40年卒)	*水谷 邦照 (昭和41年卒)
名誉会長	折戸 敏仁	
会長	*木方伸一郎 (昭和46年卒)	
副会長	木村 容子 (昭和46年卒)	後藤 寿彦 (昭和47年卒)
	杉山 正裕 (昭和49年卒)	遠藤 宏治 (昭和49年卒)
	村瀬 幸雄 (昭和50年卒)	松波 英寿 (昭和50年卒)
	神谷真弓子 (昭和51年卒)	杉山 文康 (昭和54年卒)
会計	杉山 正裕 (昭和49年卒)	杉山 文康 (昭和54年卒)
監査	伊在井みどり (昭和54年卒)	佐伯 淑子 (昭和55年卒)

\*の方は新任の候補者です。その他の方は再任候補者です。

### 第5号議案

## 平成30年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会 予算（案）

【一般会計】

収入の部

自 平成30年 4月 1日  
至 平成31年 3月31日

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	3,647,172	
同窓会入会費	1,065,000	@ 3,000 × 355名
受取利息	24	普通預金利息
雑収入	0	
計	4,712,196	

支出の部

役員会費	50,000	3回
慶弔費	50,000	
祝儀、餞別	200,000	在京同窓会等
総会運営費	300,000	平成31年度総会運営委員会補助金
旅費	100,000	在京同窓会出席者旅費等
通信費	10,000	切手、ハガキ、送料等
ホームページ関連経費	200,000	管理料、ドメイン利用料、メンテナンス料等
校史資料室整備費	100,000	資料整理用品等
母校支援活動費	400,000	講演会費、学校案内費用
雑費	10,000	振込手数料、同窓会入会式葉用紙等
次年度繰越金	3,292,196	
計	4,712,196	

【特別会計】

収入の部

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	4,376,560	
十六銀行株式配当金	482,678	株式保有数8,142株
受取利息	34	普通預金利息
計	4,859,272	

支出の部

次年度繰越金	4,859,272	
計	4,859,272	

【総会特別会計】

収入の部

科 目	予 算	備 考
前年度繰越金	15,430,734	
平成30年度総会運営費繰入金	1,200,000	運営費貸出金の返済金
受取利息	118	普通預金利息
計	16,630,852	

支出の部

平成31年度総会運営費繰出金	1,200,000	運営費一時貸出金
振込手数料	540	
次年度繰越金	15,430,312	
計	16,630,852	

## 平成29年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会 決算書

1. 収入の部 自 平成28年9月1日  
至 平成29年8月31日 (単位:円)

科目名	平成29年度		平成29年度備考
	予算	決算	
本会預り金	1,200,000	1,200,000	特別会計より運営費として
本会受入金収入	300,000	300,000	一般会計より総会費
会費収入	5,400,000	5,499,000	608名×9,000円 同窓会事務局教員6名×4,500円
広告料・協賛金収入	5,500,000	6,758,920	
受取利息	0	31	
雑収入	0	39,000	
合計	12,400,000	13,796,951	

2. 支出の部

科目名	平成29年度		平成29年度備考
	予算	決算	
総会費(総会費)	5,500,000	5,901,534	岐阜グランドホテル支払
総会費(会場セッティング)	100,000	0	
総会費(謝礼金)	100,000	200,000	「岐阜高校部活動紹介」出演の御礼
印刷費	3,000,000	3,040,070	払込表、広告依頼状、案内状、会報等
通信費	300,000	64,190	はがき、切手、その他
会議費	100,000	43,379	運営委員会会場費、飲物代金等
事務費	100,000	51,474	文具、コピー、その他
振込手数料	150,000	133,751	コンビニ収納手数料、銀行振込手数料
雑費	50,000	279,956	岐阜新聞他広告料、ホームページ更新料、会報校正料、映像編集他
反省会費	300,000	288,400	反省会 288,400円
本会預り金返金	1,200,000	1,200,000	
予備費	1,500,000	0	
余剰金	0	2,594,197	
合計	12,400,000	13,796,951	

上記の通りご報告申し上げます。

平成29年9月3日

運営委員長

遠藤 宏治



財務部長

坂井 明



上記について監査をした結果、適正に処理されていることをご報告いたします。

平成29年9月3日

監 査

三宅 雅之



監 査

高井 淳一



## 平成30年度 岐阜県立岐阜高等学校同窓会総会 予算書

### 1. 収入の部

(単位:円)

科目名	平成30年度(予算)	備考
本会預かり金	1,200,000	特別会計より運営資金として預り
本会受入金収入	300,000	一般会計より総会費として
会費収入	5,400,000	9,000円×600名
広告料・協賛金収入	6,000,000	
その他収入	0	
合計	12,900,000	

### 2. 支出の部

(単位:円)

科目名	平成30年度(予算)	備考	
総会費	懇親会費	5,600,000	ホテル飲食 会場設営費
	謝礼金	150,000	アトラクション
印刷費	2,800,000	会報、案内状、封筒、払込票ほか	
通信費	200,000	総会案内状、広告依頼書発送費等	
会議費	50,000	各種打ち合わせ会議等	
事務費	100,000	コピー代、事務費等	
振込手数料	150,000	コンビニ収納手数料 振込手数料	
雑費	50,000	新聞広告料 ホームページ更新料	
反省会費	200,000	反省会 次期引継費用	
本会預かり金返金	1,200,000	特別会計へ運営費預かり金の返還	
会費返金	0		
予備費	2,400,000		
余剰金	0		
合計	12,900,000		

## 岐阜県立岐阜高等学校同窓会規約

- 第 1 条** (名称) 本会は岐阜県立岐阜高等学校同窓会と称する。
- 第 2 条** (目的) 本会は会員相互の親睦を図り併せて母校の発展に寄与することを以て目的とする。
- 第 3 条** (組織) 本会は次の会員を以て組織とする。
- 正会員
- 岐阜県岐阜中学校卒業生
- 岐阜県岐阜高等女学校卒業生
- 岐阜県岐阜第一中学校卒業生
- 岐阜県岐阜第一高等学校卒業生
- 岐阜県岐阜女子高等学校卒業生
- 岐阜県立岐阜高等学校併設中学校卒業生
- 岐阜県立岐阜高等学校卒業生
- その他理事会の議を経て、会長の承認した者
- 特別会員 現職員・旧職員
- 第 4 条** (役員) 本会は次の役員をおく。
- |         |     |             |
|---------|-----|-------------|
| 名誉顧問・顧問 | 若干名 | 理事会に於て推挙する。 |
| 名誉会長    | 1名  | 母校校長        |
| 会長      | 1名  | 総会に於て選出する。  |
| 副会長     | 若干名 | 総会に於て選出する。  |
| 監査      | 若干名 | 総会に於て選出する。  |
- 第 5 条** (役員の仕事) 役員の仕事は次の通りとする。
- 会長は会務を総括し、総会・理事会・幹事会を召集し、その議長となる。
- 副会長は会長を補佐し、会長事故があるときは代行する。
- 会長・副会長は、会務の企画並びに会計に関することを行う。
- 監査は会計を監査する。
- 顧問は会長の諮問にこたえる。
- 第 6 条** (役員の仕事) 役員の仕事は2年とする。但し再選を妨げない。
- 第 7 条** (総会) 本会の目的を達成するため、毎年1回総会を開く。但し必要のある場合は臨時総会を開く。
- 第 8 条** (入会金) 正会員は入会金を納入する。
- 第 9 条** (経費) 本会の経費は入会金、寄付金等を以て充てる。
- 第 10 条** (会計) 会計年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日で終わる。
- 第 11 条** (支部) 本会には支部を設けることができる。
- 第 12 条** (同窓会事務局所在場所) 岐阜市大縄場3の1、岐阜県立岐阜高等学校内に置く。

(平成25年6月9日 一部改訂)



# 吹奏楽と三味線のための「津軽じょんがら節」

(一九八二年、第一九回全日本吹奏楽コンクール全国大会で秋田県立秋田南高校が演奏)  
作曲者：佐川 馨 (山形大学地域教育文化学部教授、教科教育専攻)

宮崎代里子【新津里奏】  
(昭和五〇年卒、三味線奏者)

## 津軽三味線と津軽じょんがら節

中国南部において成立した三絃が沖繩を経て畿内に持ち込まれ、江戸中期に日本独特の形として成立したとされる三味線は、以降、各地の土着芸能と融合して様々に発達しました。

楽曲の原型は新潟地方の替女の三味線と言われ、津軽では北前船で日本海側各地の音楽が伝わったこともあり、独特の発達をみました。津軽三味線の起源に関する口伝などを調査してまとめた大條和雄氏によれば、始祖は、幕末に五所川原の金木地区に生まれた仁太坊で、それまでは地味な門付け芸だった三味線音楽に革新的な奏法を取り入れて原型を築きました。仁太坊とともに黒川桃太郎や梅田豊月らが競い合いつつ、さらに時代が下って高橋竹山、白川軍八郎、木田林松栄らの演奏家が出ました。

この頃から、三味線は細棹ないし中棹から太棹に変化し、奏法も叩きを中心とする打楽器的な奏法が主流になりました。撥は速弾きに適した小振りなものとなり、曲の一部にパークシヴな奏法を用い、複雑で速いテンポの奏法に変容しました。

一九六〇年代の民謡ブームでは一世を風靡し、それまでの「津軽物」という言い方から三橋美智也らが「津軽三味線」と称するようになって定着したようです。また、以前は伴奏楽器として舞台袖で演奏しましたが、次第に三味線のみで独奏する前奏(前弾き)が独立し、曲弾きとなりました。さらに一九八〇年代になると、高橋祐次郎らのグループ「風」を筆頭に一般向けの合奏形式の演奏が行われるようになりました。現代では、独奏楽器としての面が強調され、吉田兄弟、木乃下真市、上妻宏光らの若手奏者が独奏主体の演奏形態を確立しています。



↑ 発足5周年記念「フジオンコンサート」(平成29年11月19日/本葉市民文化ホールにて)  
←「コラボ演奏」練習風景(平成30年4月21日/岐阜高校にて)



## 和奏楽・津軽三味線「里奏会」と会主新津里奏について

里奏会は、一九九五(平成7)年より活動していた加藤流三絃道「訓里会」を母体として、二〇二二(平成34)年7月、岐阜市で会主を新津里奏として誕生。津軽三味線の多彩な音色と演奏者の個性を活かし、聴衆とともに楽しめる場を作り上げている。

### 会主のプロフィール



岐阜市長良出身。3歳から篠塚流日本舞踊を習い、12歳で名取(篠塚力保)となる。岐阜高校、津田塾大学文学部英文学科を卒業後、米ニューヨーク州立大学大学院に留学。滞米中、国際文化交流で日本舞踊を披露する中で日本文化の独自性と重要性に気付き、帰国後、三味線を習い始める。

大学時代に聞いた名人高橋竹山氏の音色が忘れられず、津軽三味線に魅了された。一般民謡を数年習った後、飯田晴彦氏のもとで三味線と採譜の部門で指導を受ける。また、一九九一(平成3)年から加藤流三絃道「藤秋会」の会主加藤訓家元(元)に師事。

藤秋会において、一九九五年に加藤訓里の雅号とともに準師範の資格を取得し、津軽三味線「訓里会」を発足。藤秋会の海外(音楽、親善公演(米カーネギーホール、塊ウィーン学友協会ホール、豪オペラハウス)にて)や国内公演に多数参加。日本郷土民謡協会主催の全国大会・器楽演奏の部における「〇連勝達成にも貢献。また、東京・大阪・名古屋での五木ひろし特別公演、NHK・BS2の番組「五木寛之・五木ひろし・夢・歌・一夜」に出演。訓里会の会員とともに各種イベントでの演奏、高齢者福祉施設・病院などでのボランティア演奏を行う。

地元岐阜の地で里奏会を立ち上げてからは、岐阜・大垣中日文化センターの講座、毎年(の記念コンサート)を開催。他の楽器とのコラボレーションなど、精力的に演奏活動を続けている。

(同会ホームページより抜粋)

# 今日

## みんなが昔のあなたに

## 会いにきた

渡邊 利昭

岐阜高校で過ごした青春時代の一時を懐かしく振り返り、しばし「懐旧の情」に浸る…。こういう機会は誰ももてる贅沢ではありません。

一般的にいえば、若いうちにはできるだけ後ろを振り返らず、いつも先のことを慮って前を見て進む、そんな人の方が活力を感じ、たのもしく受け取られます。

しかし、歳六〇を過ぎますと、今までのように先ばかり見て歩んだり、他人を意識したりする行動も緊張の連続で疲れてしまいます。こちらで一度立ち止まって、古き良き青春時代のできごとのいくつかを思い起こし、新しい出発の糸口にしてみてもうどうでしょうか。

普段の日常生活では、なかなかできなかつた過去に眼を向けさせてくれるいいきっかけ、それが同窓会のもっている一面でもありましよう。

現在、テレビで人気の「今、あいつ何してる?」(メ〜テレ、水曜日夜七時)ではありませんが、同窓会は

みんなが今のあなたに会いに来るという面が確かにあります。その一方で、昔のあなたに会いたいから多くの学友が集うのではないかとも思います。そうだとすれば、「昔のわたしはどうであったか」と、今日のこの機会に青春時代(岐高時代)を振り返ってみるのも、強ち消極的で後ろ向きだなどとはいえないでしょう。

私たちは長い間、自分の外を見ることに眼を使ってきました。この際、自分の中を見るために眼を使ってみてはどうでしょうか。そこで、昔を振り返る一つの手立てとして次のような問いを考えてみました。

### 今のあなたは昔と比べて、

- 一 眼に見えないものを見ようとして、分らないことを分かつとうとするほうですか。
- 二 こちらの気持ちも考えず、土足で踏み込んでくる相手を強くなじるほうですか。

- 三 愛とか美とか正義といったことについて、どちらかといえば考えなくなつたほうですか。
- 四 不正や不道徳に対して腹を立てるほうですか。
- 五 何か没頭していることがありますか。
- 六 何か取り組みたいことがありますか。
- 七 周りの人や仕事仲間と世情や仕事のことと議論するほうですか。
- 八 二〜三日ないしは一か月先のことをより、もつと遠い将来のことを考えるほうですか。
- 九 自分の夢について語り合うことがありますか。
- 一〇 休日などに外出することが億劫になつたと感じますか。
- 一一 着る物や食べ物について関心がなくなつたと感じますか。
- 一二 心をときめかすことが少なくなつたと感じますか。

さて、結果は如何でしたか。四〇

有余年前と比べて、自分は何を失い、何を得てきたか。あるいはあの頃は何を思い、何に悩み反抗していたかなど、設問が「昔のあなた」を思い起こす橋渡しになつたでしょうか。

ともあれ、結果として何かしらが痛み、奮い立つものを感じていただければ望外の幸せです。

ここで、皆さんのために傘寿を迎えた私から次のことを提案させていただきます。

### 〈私の提案〉

- ・高校時代、自分が比較的好きだった教科の教科書や参考書を一度ひもといてみませんか。例えば「徒然草」や漢詩などを文法とは関係なしで味わつてみてください。新しい発見があるかと思えます。

- ・「我を非とするものは我が師なり」という箴言しんげんがあります。自分に厳しく当たってくれる人、そんな人が一人身近にいてくれるといいと思います。言うまでもなく、それは青春時代から、そして今もあなたを見続けているあなたの連れ合いです。大切にしまししよう。

最後に今思い出されること

① 四間・五間の教室が狭く感じられた

現在、高等学校は四〇人クラスが一般的ですが、当時は理系は四九人と多く、三年九組の授業に行っていました。机間巡視も思うに任せず、苦労しました。

組	担任氏名	担任の担当教科・科目	クラス編成	コース
1	山田 喜三	数 学	男子 48 人	理系
2	江崎 力	英 語	男子・女子 43 人	文系
3	西尾 昭夫	日本史	男子 44 人	
4	森下 治美	国 語	男子 43 人	理系
5	山田 三郎	物 理	男子 49 人	
6	吉田 隆司	英 語	男子 49 人	文系
7	川田 一朗	化 学	男子・女子 49 人	
8	高田 睦	国 語	男子・女子 43 人	理系
9	竹下喜美雄※	数 学	男子 49 人	
10	渡邊 利昭	世界史・日本史	男子・女子 43 人	文系

※9組は9月から 大矢 邦彦 先生

② 下宿懇談会のこと

当時、学校近くに下宿していた生徒は七二人いました(そのうち三年生は四一人)。三年生の担任であり、生

徒指導担当であったことから、下宿に関する仕事をしていました。主な内容は下宿生や下宿先の方との話し合いの場を設定して、生徒の衛生・健康について聞き取ったり、下宿先の方へ生徒の注文をぶつけたり、逆に生徒の素行について注文を突きつけられたりと、団体交渉に似た仕事でした。

③ 毎日教卓に花

一年を通じて私のクラスの教卓には毎日花が飾られていました。授業に來られる先生方からは「ナベさんは幸せだなあ」とうらやましがられました。

昔のそして今のあなたに万歳。



渡邊利昭先生  
(昭和四二・四三・四五〇・三に在職)



# 故・竹下喜美雄先生のこと

大矢邦彦

学年主任でもあった竹下喜美雄先生は昭和四九年の夏頃から学校を休まりました。クラス担任を引き継がれた大矢邦彦先生に、当時の思い出をお書きいただきました。また、昭和五〇年の卒業生のうち、数学を教えていただいた者が竹下先生をしのぶ文を寄せ書きしました。



大矢邦彦先生  
(昭和四四・四五・四六に在職)

竹下喜美雄先生が学校をしばらくの間休まれることになり、その後任として私は、九月から三年九組の担任を引き継ぐことになりました。その頃の私の立場などは平成二〇年度

の会報に載せていただきましたが、今回は、竹下先生のことを中心に、との依頼を受けました。

竹下先生は、昭和四三年四月に岐阜高校から岐阜高校に転勤してこられました。同じ年の四月に転勤してこられた英語科の井口日出男先生は、住まいも近いことから、通勤時には同乗させてもらったことを話しておられました。休まれる二年ほど前から、奥様が送り迎えをされました。高等商船学校の学生時代に痛められた目の視力が相当弱くなりました。

勤務には、そのような素振りには微塵も無く、小テストなど几帳面に行っておられたと、数学科の大山敬一先生が話しておられました。また、同じく数学科の中村善光先生は、岐阜に転勤してきていろいろな面で戸惑っているとき、竹下先生がこまめに助けてくださったことが忘れられないと話しておられました。

厳しい教育観をおもちで、なかなか

か近付き難い先生でしたが、仲間内では「竹さ」の愛称で接しておりました。お宅にも時々お邪魔してコーヒータイムのひとときを過ごさせていただき、先生の人生観に触れさせてもらったことが、昨日のことのように思い起こされます。

昭和四九年の夏、私たち数学科職員は旅行で草津方面に行ったのですが、そのアルバム写真を今開くと、「竹さ」はいません。そして九月から休まれ、私たちには寝耳に水の事でした。そこまで健康状態が良くなかったことを、誰も気付かずにしたことを申し訳なく思いました。

三年九組の生徒諸君も、急なこととて、驚きながらも、早速にお見舞金を集めました。クラス委員長の松岡浩司君のお母様の配慮で恥ずかしくない金額にし、松岡君と私が一緒にお宅へ持って行きました。そして、生徒全員の「一日も早い先生の復帰」を願う気持ちを伝えました。

竹下先生はとても恐縮され、生徒

の気持ちに感謝され、それまでの生徒諸君のこと、以後のことなどについて話され、「くれぐれも三年九組のことをよろしく」と、何回も何回も、別れ際になるまで言われました。私は、責任の重さを痛感して竹下先生のお宅を辞去しました。この時が最後になるとは思ってもいなかったのですが、奥様に先立たれ、先生自身も帰らぬ人となられた今は、ご冥福を祈るばかりでございます。

合掌



◇◇◇◇◇

竹下先生は、サンガラスをかけておられたので、外見はこわい印象の先生でした。数学を教わりました。

授業中に、こんな話を聞いたことがあります。「私は、目が悪いからテレビを見ない。ラジオで『小沢昭一の小沢昭一的ところ』を聴いている。いろんな話が聴けて面白い」

私は、ラジオでこの番組（TBS系列、一九七三年一月〜二〇一二年一二月）を聴くと、竹下先生のことを思い出しました。小沢昭一も天国へ行っちゃった。竹下先生、天国でラジオ聴いていますか？

（大倉 光弘）

◇◇◇◇◇

竹下先生には二年生の時に教えていただきました。数学がいたって苦手な私は、当てるほしくない気持ちで一杯でしたが、当時丸刈りだったこともあってか、先生からは福助人形に似ているからと「福助」というあだ名をいただき、授業中よく当てられました。とは言っても、たいていは授業内容におよそ関係のない頓珍漢なやりとりで終始し、今振り返

るとちょっとしたブレイクタイムになつていたのかなと思います。

厳しくも温かい目で見ていてくださった竹下先生。数学の成績はさておき、先生のユーモアや潤いが私自身の教員生活に大きな教示となったことは間違いないと思います。ありがとうございました。

（坂口 浩之）

◇◇◇◇◇

小学校から大学まで数多くの先生に出会いましたが、竹下先生のお姿が真っ先に浮かびます。授業中の厳しさは、「人の話をよく聞くこと」、「周りの人に迷惑をかけること」という近い将来の社会人としての心得を伝えられたのだと思いました。

クラスでは、目立つような存在でなかった私に対して、三年間ずっと担任として進路相談や授業内容の質問など親身になって丁寧な接していただき、厳しい中にも優しさを感じていました。竹下先生、本当にありがとうございました。

（佐々木俊之）

◇◇◇◇◇

入学式、生徒はクラス毎に整列し、担任の先生はその先頭、ステージ前に立たれます。体育館に入ると、黒い眼鏡をかけた先生が一人おられました。私は、その見かけだけで「あのクラスじゃないといいな…」と思いました。竹下喜美雄先生のクラス（一年七組）でした。

その後、一年生から三年生まで竹下先生のクラスでした。教室では、担任として教科担任として、いつも厳しくご指導いただきましたが、あるとき進路上のことでご自宅に相談にうかがったことがありました。そのときは、丁寧な優しく話していただいたことを今でも鮮明に覚えています。竹下先生のご指導のおかげで鍛えられたことは数知れずあります。

（園部 利彦）

◇◇◇◇◇

竹下先生には、教科担任で二年生の時にお世話になりました。いつもサンガラスをかけておられて一見強面なのですが、思い浮かぶのは、ニヤリとした表情を見せて生徒とのや

りとりを楽しんでおられた場面です。タモリさんにも似た、人間味あふれる先生の印象でした。

ただ、数学の課題をこなすのに一杯の私にとっては、やはり教壇に立たれている先生を遠く眺めていたという記憶でしょうかありません。私たちが還暦を過ぎた今お会いしたら、きつと色々なお話もうかがえたのではと思うと、とても残念です…

（湊口 順子）



## 往事を振り返って

江崎正徳

昨年の師走に突如、昭和六〇年三月の卒業生の一人から岐阜高校同窓会会報への寄稿依頼を受けた。後期高齢者の仲間入りを目前にした私には、昭和六〇年は三〇年以上も昔のこと。この年になれば、断捨離とか終活などの言葉が脳裏を横切るが、辛うじて当時のPTA会員名簿と卒業アルバムだけは書架の片隅に置かれていて。この資料をもとに、当時を懸命に蘇らせてみる。

岐阜高校に在職したのは、昭和五一年度から平成元年度までの一四年度で、三〇代前半から四〇代半ばまでであった。多士済々の先生方から様々な刺激を受けながら、優秀な生徒諸君との出会いもあり、教員生活の中で最も充実した時期であった。このことだけは鮮明に想い出されるが、仔細は臆気である。

この間に水泳部、天文部などの部顧問も経験したが、最も長期にわたったのはバレーボール部で、鶴飼宗律先生や水野秀則先生たちに専門的な

指導をお願いし、専ら出てこん間を決め込んでいた。バレーボール部OB会の案内状を今でも毎年の暮れに頂戴し、恐縮している。そのOB会の開催日は正月二日に固定されているが、欠席ばかりで、今後は高齢のため案内は不要などと返信しようかと思いつつも、近況報告をしたためている。

昭和五九年度のPTA会員名簿を繰ると、第三学年のみが九学級である。この年度の卒業生が昭和四一年のいわゆる丙午の生まれで、天下の岐阜も時流に棹さすことはできず、一学級減となった。創立百十年（当時）の伝統と歴史を誇る岐阜高校も、時代の要請から無縁たり得ず、昭和四九年度から導入された学校群制度は九年間続き、昭和六〇年三月の卒業生は、学校群制度のもとの最後の卒業生となった。僅かに手許に残る当時の進路指導資料に、外部模試の対加納高校比較がある。学校群制度の廃止後も可児高校など他校との比較は不可避で、岐阜高校の宿命で

もあるが、進取の気性に富み、自由闊達を重んじる校風は脈々と流れている。昨今、岐阜高校が生徒の多様なニーズに応えるために単位制を導入する新聞記事が世間の耳目を驚かせた。

最後に、英語教師としての経験は内心忸怩たる思いもあるが、当時を述懐したい。向学心に富む生徒諸君に支えられての岐高一四年間であった。岐阜の英語教育と言えば、山貞と親単が双壁であった。山崎貞著『新々英文解釈研究』はもう止めていと悲痛な叫び声が沸々と湧き上がったし、文脈無しの英単語学習は労多くして功少なしなどと懐疑心を抱くこともあった。しかし、爾来三〇年以上になる現在でも、「出る単」・「聞く単」などと称する副教材で語彙力強化を図っている高校は結構多い。余談ながら、古館伊知郎氏はテレビ局の入社試験に際して『広辞苑』を暗記したなどの逸話もある。真偽のほどは不明だが……

閑話休題、この頃から、中等教育学校の英語教育が大きな変革期を迎えた。文部省は、英文法と訳読式英語教育法から抜け出せない古い体質の英語教師を“筑波プリズン”と別称される国立教育会館分館に約一ヶ月間収容し、コミュニケーション手段としては英語しか許されない環境で英語教師を研修させた。ここでの経験が、私の残された十数年の教員生活を決定することになった。



江崎正徳先生

(昭和五・四〜平成一三に在職)

## 波瀾万丈の八年間 宮部敏男

今から四〇年前、三六歳の時、加納高校から自分の母校へ赴任し、八年間精一杯職務に邁進しました。教師冥利に尽きる悲喜交々の日々であったと思います。

一九七〇年代は、オイルショックや円高ショックによる不況を乗り越え、工作機械、家電製品、自動車などが世界の市場に目覚ましく進出して輸出競争力が高まり、続く一九八〇年代は繁栄の十年とも言われる、まさに激動の時代でした。

当時の岐高も、創立百周年の歴史と伝統を有する進学校として幾多の有為な人材を輩出し、世間の注目的でした。全校集会などで、校長訓話には校歌の一節「国家の為に明け暮れ学ぶ」が引用され、学ぶ意義を明確に伝えられました。私自身も高校時代を思い起こし、その当時は、真剣に将来像やあるべき姿を友と語り合ったものでした。

さて、英語を担当していた私は、大受験で大きなウェイトを占める教科であり、将来世界に羽ばたく人材育成のために力が入りました。授業では、

①語彙力の強化、②構文の理解、③ラビッド・リーディングを指導の主眼とし、コミュニケーション能力の涵養に一層努めたことが思い出されます。

次に、ホームルーム担任としては、進路相談を中心に生徒だけでなく、保護者の方にも誠心誠意対応しました。成績評価では、励ましを主にし、将来の夢を語り合ったり、家庭での話題を取り入れたりしました。今でも、生徒指導の極意は本人をその気にさせること、やる気を起こさせることだと思えます。同窓会などで久しぶりに教え子に会うと、私自身は忘れてしまっていることを鮮明に覚えてくれていて、あの時の一言のアドバイスが今の仕事に活かされていると語ってくると、嬉しくなります。

岐高に勤務して忘れられない思い出があります。それは硬式野球部の部長に任命され、六年間無我夢中で取り組んだことです。創部百周年を二年後に迎える、全国有数の歴史をもつ野球部だから今を千載一遇のチャンスにとらえ、甲子園出場を目指してほしいとの厳命をOB会、同窓会幹部一同

から受けました。これを、今は亡きお歴々の方々から料亭の一室で懇願されたのです。当時は若造の小生にとって、到底断ることなどできない雰囲気ですが進んでいきました。以後、部員たちとの初顔合わせ、新監督、コーチとの初対面の挨拶も、地に足が付かないような状態でした。それでも「窮すれば通ず」の言葉通り、一歩ずつ徐々に進み始め、サポートしていただく方も日毎に増えました。監督さんが勤務の都合で来られない時は、私が練習試合などで指揮を執ったこともあり、必死の覚悟で部員相手にノック術を磨いたり、専門書を読んだりして、何とか様になっていきました。

部員たちは、練習後ミーティングを重ねて団結を強め、冬季練習、日曜日の終日練習や遠征試合、元日と考査一週間前の他は厳しい練習。それらに耐え、彼らは見違えるほど上達し、実力をつけました。保護者の中には、これでは我が子の進路が達成できないと、練習の厳しさに不満をもたれる方もありましたが、度重なる会合で、ついに全面的に支援することが全会一致でまとまりました。

この間の二年間にわたる葛藤は、ここでは書き尽くせないほどで、私の脳裏に焼き付いています。校内では、先生方から部員の生活や成績について心

配や苦情が寄せられました。しかし、しばらくの間辛抱してもらい、校長には再三暗黙の了解をいただき、夏の県大会を迎えました。結果は、運が味方してくれたかもしれませんが、決勝戦まで勝ち上がりました。惜しくも準優勝で甲子園を逃しましたが、翌日の新聞では岐高の健闘が大きく讃えられました。全校生徒を始め、OB会、同窓会の大フィーバーは凄まじいものでした。

不思議にも、その年の全体の大学進学状況は格段の伸びを示しました。しかし当時の選手は、その年は大半が浪人しましたが、翌年にはほぼ全員が志望校に進学しました。社会人に成長してからは、各分野で活躍している姿を見せてくれることが、私にとって最高の喜びです。また、あの時に献身的にご協力いただいた多くの方々に、心からお礼を申しあげたいと思います。ありがとうございました。



宮部敏男先生

(昭和五三・四、昭和六一・三に在職)

## 縁は財産、大切に

坂井俊郎

『試練、旅立ちそれぞれの春』平成七年三月一日付け岐阜新聞夕刊の見出しである。馬淵芳美校長先生の左後方から絶妙のアングルで卒業証書が渡される瞬間の写真に添えられていた言葉だ。

担任をしていた一組の堀口君が受領者としてそこに写っているではないか。思わずコピーを取ってアルバムに挟み込んだ次第である。

二、三、三、一、二、三、一、二、三

これは走るリズムではなくて着任後担任した学年の推移で、最後の三が冒頭の卒業生たちの年である。

気が付いたら男子クラスの担任ばかりで、気楽でざつくばらんな雰囲気であったし、担任も生徒も居心地の良さを満喫していたように思う。

さて、お世話になった一五年間の初めの九年間は小生にとって前期の勤めと言える。教科指導に加えて、クラスを任されて懇談したり大声で指導したり、遅刻対策にエネルギーを注いでいた時期でもある。結果として、クラスを担任する最後の年で

あったから、特別な学年になった。年度が変わり、後期の六年間が待ち受けていた。学年を任されることになった。感傷に浸る余裕もなく、やること、やるべきことは山ほどあった。

以後、進路指導、生徒指導、教務とお世話になった。生徒指導の初年度に羽鳥での事故で生徒が亡くなるという悲しい出来事があった。また、在校生が乗る車が事故に遭い、瀕死の重症であったが奇跡的な生命力と回復力で乗り越えたこともあった。後に入社した讀賣新聞社で「アトムと私」シリーズを執筆した館林千賀子さんは、伝える大切さを皆に教えてくれた。ともに危機管理について、学校が真剣に考える機会を与えてくれたと思う。教師として、人として何かと教えられた六年間であった。さて、小生が数学以外で一五年間関わった柔道部について触れよう。天理大OBで、重量級全日本学生チャンピオンの実績をもつ古賀悟先生との関係は着任と同時に始まった。

時間を有効に使い切る岐高のハードな練習メニューは、岐山高校や岐阜農林高校の生徒も怖れていたらしいが、練習後の古賀先生の訓話には迫力があつた。古賀先生のお話とはとにかく具体的で、実践的で、理論的なのだ。柔道部以外のどの部でも通用する内容であつたと思う。先生のお話を伺っているうちに、ついにその芯の部分を見つけた。それは「備えよ常に！」である。日頃からアンテナを高く張り、何かを感じ取り、その動向を見守るといふ高い難度の技を先生は密かに編み出されていた。古賀先生には、岐高での後期の六年間にどれだけ支えられ、助けられたことか。出逢いの縁に改めて感謝をしたい。

最後に。五年前から年末の第九合唱に挑戦している。唱った直後の達成感がたまらない。毎回、第四章の深さと力強さからエネルギーをもらって新年を迎えている。

実は、本日の同窓会の一週間前までリトアニアにいた。「人道の桜」や

「第九合唱」などの交流で楽しんできたばかりで、心地良い疲れに浸っているところだ。新たな縁を感じながら。



坂井俊郎先生

(昭和六二・四〜平成一三・三に在職)

## 私の青春

河口澄子

岐高で皆さんと一緒に過ごせた日々は私にとって正に宝物です。毎日教える喜びを一杯に感じながら、目の前の課題をこなすのに私も一杯でした。爽やかな、時にはひんやりとした朝の風を感じながら、幸せな思いで朝のショートホームルームや授業に無蓋の渡り廊下を急いでいた自分を懐かしく思い出します。当時は今のように便利なソフトもなく、毎時間の小テスト作成などにも時間がかかりました。皆さんの予習と同じです。しかしそんなプロセスがあったからこそ、皆さんの幸せな一瞬を過ごせたのだと思います。皆さんの三年間は辛くとも楽しい青春の真つ只中、私にとっても皆さんと一緒に必死に駆け抜けた『青春』でした。

皆さんの可能性に期待して、私は時々暴走をしました。放課後遅く、半泣きになって追試を受けに来た数人の生徒と共に、自分を反省しながら一緒に勉強しました。どの先生も生徒の可能性を最大限伸ばすという

気概をもって臨んでいました。真剣勝負でした。私も完璧さを求めて常に指摘していました。厳しい私から高評価を得るため、週末には一課全部を予習するのが習慣化してきました。文句なしの最高評価でした。主体的な姿勢に岐高生の余力を感じ、私も大きな喜びを感じました。

文化祭のバザーも何とも楽しかったです。クッキーやケーキをたくさん焼きましたよね。後片付けまで実に見事でした。普段見られない姿を発見することができました。

All English による A L T との研究授業では、おもちゃ屋で探してきた大きな青いビー玉を掲げて質問をしました。宇宙飛行士ガガーリンが史上初めて地球を一周した時のコメント、「地球は青かった」を引き出すためでした。突然の All English に戸惑い、一瞬沈黙。私の不安を察知してか、正解が出るまで代わる代わる拳手をしてくれました。お陰で後はスムーズでした。ビデオカメラを構える先生もおられる中、ただ担任の

窮地を救うため、自信はなくても勇気をもって何度も拳手をしてくれました。何と素晴らしい生徒たちかと思いました。稚拙な小道具と質問にも、懸命に答えて沈黙を回避してくれた、心憎いばかりの優しさに、いつまでも感謝の念を覚えます。

二年生最後の L H R で、生徒たちの特別な計らいに言葉を失いました。ただただ涙が溢れてきました。大きな花束に、贈らなければならぬのは私でしょうと思いました。卒業式の日に贈られた花束に涙しなかつた私のことを、「今年泣かなんだぞ」と大声で触れ回っているのを耳にし、何とも言えない愛おしさを感じました。

共に駆け抜けた忘れられない思い出と共に、みなさん一人一人が私の宝物です。いつか全てを鮮明に思い出す日があるのではという気がしています。共に紡いだ世界でたった一つのタピストリーのことを。

科学進歩の目覚ましい中、人と人のつながりを大切に、今日も誰かの

幸せのために力強く歩んでください。音楽や文学からも勇気をもらいます。シェイクスピアの『ハムレット』の中の言葉を贈ります。

雀一羽落ちるのにも神の摂理がある。無常の風は、いずれ吹く。…覚悟が全てだ。…なるようになればよい。

今ある状況で、天の声を聴きながら最善を尽くしてください。私もそのような努力したいと思います。



河口澄子先生

(昭和六二四〇平成七三に在職)

# 退職して、今思うこと

丹羽 章

平成七年三月一日、岐阜高校の体育館で卒業式が行われました。卒業証書授与の時を迎え、私は担任としてマイクの前に立ちました。「三年八組

阿部真大、市橋拓 … 森島真弓、

安田真由美 以上四六名」と、我がクラスの生徒一人一人の名前を呼び上げました。その時、このクラスが、私が担任として受け持つ最後のクラスになるとは、思いもありませんでした。

卒業式から二週間ほど経った夜、自宅に馬淵校長から電話がありました。内容は、「岐阜県図書館への異動の内示」でした。あまりにも唐突で、全く予想もしていなかったので、思わず「私は何か悪いことをしましたか？」と校長に聞き返したくらいです。もちろん断ることが出来るはずもなく、三月下旬に離任式を済ませ、岐阜高校を去りました。

思い起こせば、昭和五三年四月に飛騨の地で教員としての一步を踏み出しました。毎日が本場に新鮮であり、充実していました。中でも放課後の部活動で、生徒に混じり、日に焼け

て真っ黒になりながらラケットを振り回していたことが懐かしく思い出されます。それからの教員生活の中で、新任で船津高校に五年間お世話になる中で三回担任を持たせてもらいました。二校目の可児高校では七年間で六回、岐阜高校ではありがたいことに五年間で五回、担任を持たせていただきました。

私にとって合計一四クラスで担任したことになるのですが、どのクラスの生徒たちも未熟な私によく我慢し、ついてきてくれました。そんな中、生徒たちと気持ちが一つになったときの喜びは何事にも代え難いものでした。逆に、生徒たちの気持ちが理解できず、心が通じ合わなかった時の苦しさや悔しさに、眠れぬ夜を過ごしたこともありました。しかしそれらも、全て時間が解決してくれました。

「三風五雨」という言葉があります。岐阜高校にも在籍されていたことがあり、中津川市付知町出身の画家で文化勲章の受賞を辞退したことでも有名な熊谷守一さんの言葉です。「三

風五雨」とは、人生を二〇日に例えると、三日は風が吹き、五日は雨が降り、晴れる日は二日しかないという意味です。改めて今、教員生活を振り返ってみると、いろいろな場面が、走馬灯のように頭の中を駆け巡ります。嬉しかったこと、悲しかったこと、悔しかったこと、様々な場面が浮かびます。しかし、現在の心境は、教員生活を一〇日に例えると、八日間は晴れていたように思います。どうも過去は美化されるようです。

いずれにしても、退職して二年が過ぎた今、改めて教育とは何ぞやと問われれば、私はこう答えます。教育とは「心」なり、いや、教育とは「夢」なり、いや、教育とは「愛」なり、いや、私は今、確信をもって断言できます。教育とは「人」なりと。いくら時代が変わっても、児童・生徒の心に寄り添いながら教育を行うことができるのは、コンピュータでもなければ、ロボットでもありません。生身の教員にしかできません。教育という

営みは、人が人に行う営みに他なりません。私が担任として、教科担任として生徒の皆さんに対して行ってきた教育に対する評価は様々あるかもしれませんが、甘んじて受けたいと思います。

しかし、退職して今思うことは、教員という仕事を天職として全うできたこと、また、特に岐阜高校において教員として、校長として勤めさせていただいた中で、多くの素晴らしい生徒の皆さんや保護者の方々、同僚の先生方と出会えたことへの感謝です。

岐阜高校の益々の発展を祈念申し上げるとともに、岐阜高校に関わる森羅万象全てのものに心より感謝申し上げます。



丹羽 章先生

(平成二四〇七三三・三五四二八三に在職)

# 期待

園部 栄子

今年の同窓会総会の当番幹事学年である平成七年卒の方々が入学された平成四年、皆さんが花の岐阜高生になった頃、私自身も岐阜高校に赴任したばかりで、緊張の毎日を送っていました。

平成という年号が天皇のご退位とともに三一年で終わることになり、平成という時代の回顧や総括がいろいろなところでなされ始めています。自分なりに振り返ると、平成の初め頃まではバブル経済の余韻がまだ残っていました。しかし、バブル経済の崩壊以後は景気が長期的に低迷し、世の中は閉塞感に満たされ、戦後に新しく築かれたものや制度がいっしょに古くなり、組織の硬直化も問題になりました。

そうした中で、インターネットを中心として情報・通信の環境が大きく変化し、社会の有り様も人々の意識も様変わりした感があります。特に二〇〇八年から日本語で使えるようになったツイッターやフェイスブックの影響は大きいでしょう。人々

はネット上で結び付くようになり、携帯電話がスマートフォンに代わり、SNSは個人間のつながりを担う主役になりました。

また、平成七年卒の皆さんにとつての就職は、「氷河期」と形容されたほどの不景気の中で、自らの力や希望を信じつつも、世の中の趨勢に翻弄されたのではないのでしょうか。しかし、今では四〇代。社会の中軸として自分たちの時代を築いていくことを期待され、人生を更に充実させることも可能な世代です。

その一方で、周囲は過去の栄光に固執し、皆さんの意に沿わない考え方を押し付けたり、以前と同じノルマを求めたりすることもあるかもしれません。さらには、「働き方改革」の推進のため、何かを始めるにあたって先ずは一度立ち止まり、必要なことと不必要なことを改めて峻別しなければならぬ時代にもなりました。

まだまだ不足感と不自由さが残っていた昭和の頃と比べて、便利になっ

た面もありますが、私は、息苦しさを感じるようになってきているように思っています。これからは、真の豊かさや充実、確かな価値を求める時代であり、皆さんには是非その先頭に立つて新たなものを創造してほしいと思っています。

ジュネーヴの世界経済フォーラムが、世界で活躍する人たちに、成功するために必要な能力を挙げてもらったところ、その上位三つは、問題解決力、クリティカル・シンキング（批判的思考、物事の問題を特定し適切に分析することによって最適な解に到達するための思考法）、創造性でした。経済力などの重要度は高くなかったそうです。オランダのD・ローズガールデは、これからは共感的理解、好奇心、美を求める気持ち

がこれまで以上に評価されるようになるだろうと語っています。なぜなら、こうしたことはロボットやコンピュータが不得意なことであり、だからこそこれからの社会に生きる人間がもつべき能力である、とも言っ

ています。(NHKTV『スーパーレゼンテーション』)

皆さんが岐阜高校で培ったものをもつてすれば、必ずや本当に必要なものを見抜き、そこに向かって一つ一つ築き上げていくことができるはず。戦前の反省をもとにして戦後を築いた人々がいて、昭和の反省をもとにして平成を築いた人々がいたように、皆さんは、来るべき次の時代を創造し、社会を牽引する人々なのだという誇りと気概をもつて頑張ってください。ご活躍をお祈ります。



園部 栄子 先生

(平成四・四〇二・三に在職)

岐阜高等学校に赴任された順に掲載しています。



# 当番幹事学年がお世話になった3年間のクラス担任

この三学年が在学中に薫陶を受けた校長先生は、昭和五〇年卒が佐光義民先生、堀房夫先生、昭和六〇年卒が村井實先生、平成七年卒は大宮義章先生、馬淵芳美先生でした。この三学年はまた、いずれも二年生の時に創立記念行事を迎えました。それぞれ、百周年（昭和四八年一〇月七日）、百十周年（昭和五八年一〇月二日）、百二十周年（平成五年二月四日）でした。そのほかには、昭和四九年度から五七年度まで学校群制度が実施され、昭和五九年二月に部室の一部改築、平成七年二月にはグラウンドと前庭の整備が行われました。

## 昭和50年3月卒業生

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
昭和47年度第一学年	井口日出男	岩田 望	大場 民夫	大山 敬一	菅原 義泰	高田 晃	竹下喜美雄	平田 章	森下 治美	横山勢津男
昭和48年度第二学年	渥美茂四郎	井口日出男	岩田 望	大山 敬一	高田 睦	竹下喜美雄	森下 治美	山田 三郎	横山勢津男	渡邊 利昭
昭和49年度第三学年	山田 喜三	江崎 力	西尾 昭夫	森下 治美	山田 三郎	吉田 隆司	川田 一朗	高田 睦	竹下喜美雄※	渡邊 利昭

※9月から 大矢 邦彦

## 昭和60年3月卒業生

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9
昭和57年度第一学年	高田 睦	江崎 正徳	金武 幸八	森 大鳳	佐口 修一	内川 史朗	兼松 修司	宮部 敏男	戸田 孝道
昭和58年度第二学年	佐口 修一	夏目謙二郎	高田 睦	水野 秀則	内川 史朗	江崎 正徳	宮部 敏男	戸田 孝道	沼波 政信
昭和59年度第三学年	森 俊勝	内川 史朗	戸田 孝道	沼波 政信	佐口 修一	高田 睦	宮部 敏男	江崎 正徳	水野 秀則

## 平成7年3月卒業生

組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平成4年度第一学年	山村 一枝	竹中 良典	北川 邦彦	加藤 知之	小木曾 浩	河口 澄子	田中 彰	坂井 俊郎	岩田 保	辻 泰
平成5年度第二学年	坂井 俊郎	田中 彰	岩田 保	加藤 知之	辻 泰	山村 一枝	林 雅浩	竹中 良典	水野 秀則	河口 澄子
平成6年度第三学年	坂井 俊郎	田中 彰	加藤 知之	宮川 直樹	小池 秀男	辻 泰	竹中 良典	丹羽 章	河口 澄子	北川 邦彦

特集①  
座談会

岐阜から世界へ

世界へ飛び出したきっかけ

**松波** 先ず初めに、皆さんがどういうきっかけで世界へ飛び出したかをおうかがいしたいと思います。それぞれの所属する社会や会社なり組織なりの影響は大きいと思います。林さんからお願いします。

**林** 私が最初に海外へ出たのは二七歳の時です。海外で勤務しなくてもいいだろうと思って、商社ではなく銀行を選んだのですが、入行して三店目でニューヨークへ行くことになり、それほど語学ができたわけでもないのにと、かなり驚きました。三五歳まで七年間勤務しました。

ニューヨークでは、いきなりアメリカ企業の担当となり、最初はかかってくる電話に恐怖を覚えたほどで、アメリカ人とどう付き合うかを含めて苦労しました。七年の間、どのように自分なりにアイデンティティーを作っていたかというところ、日本の中では「KY」と言っていて、空気を読む、出る杭は打たれるという環境でしたが、海外では、途端にお前の存在価値は何なのかと絶えず問われるわけです。二七歳には強烈でした。言葉もそんなにできないし、仕事も学び始めの頃でした。当時は邦銀もトリプルAをとって日本の銀行もすごいぞという状況でしたが、アメリカ人からは、お前の付加価値は何だと問われるわけです。

三二歳でグループのヘッドになりました。自分の付加価値を上げなければということから、アメリカ人に対してどういうふうにしたら業績、パフォーマンス、あるいはダイレクションを納得させられるかを重視しました。部下は一〇人いましたが、全員がMBA卒業生かロースクールを出て弁護士資格をもっているのに対して、自分だけがたき上げなので、いろんなもので実績を示す、ロジカルにきちっと説得する必要があるわけです。そこで一番感じたのは「サムシング・ディファレント」、あなたの付加価値は何ですか、何が人と違うんですか、ということなんです。「サムシング・ニュー」、昨日と違うあなたは何か、それを絶えず意識して語り続けました。日本の社会では、企業であれ何であれ、それを言うという文化が、早くなかったですね。でも、そうしないと海外では生きていけなかったし、自分の付加価値という意味では、二七歳でニューヨークで苦労したことが僕のアイデンティティーのバックボーンになっていると思います。

**松波** なるほど、すばらしいお話です。「サムシング・ディファレント」、要するに、私は他の人とはここが違うんだということを常に主張しなかったら世界ではやっていけないという非常に大事な言葉ですね。河合さんは、早くから何回も世界へ出ていますが、そのあたりも含めてお願いします。



日時：平成三〇年二月一日（日・祝）一〇時  
会場：岐阜高校・大会議室  
出席者：○河合達郎（ハーバード大学医学部教授）  
櫻井修一（前ヨルダン駐劄特命全権大使）

林 信秀（㈱みずほ銀行取締役会長）

松波英寿（松波総合病院理事長）（司会者）

（氏名は五十音順、○はボストンからTV会議）

**河合** 今のお話に同感です。学生時代からアメリカに興味があったのですが、いろいろな事情で大学卒業後すぐには行けなくて、普通のコース、つまり大医学局に入って一通り修練を積みました。一〇年後にリサーチで渡米したんですけど、やはり英語で苦勞しましたね。

リサーチがうまくいって、三年経ったところで日本に戻りましたが、次は自分のリサーチを人間に応用しようと、帰国後の三年間努力しました。しかし、それを日本において実現するのは到底不可能であると悟り、再渡米することにしました。その時はもう四〇歳でしたが、今度は臨床もやるわけですから、アメリカの国家試験も受けなくてはならず、ちょっと大変でした。

そういう訳で、林さんに同感するのは、アメリカでなぜ生きてこられたかと言えば、一つのことをずっとやってきたからです。これに関しては世界中の誰にも絶対に負けないというものがなかったら、アメリカでは生きていけなかったと思います。

**松波** それはトランス(免疫寛容)のことですか？

**河合** はい。オールマイティーである必要はないと思います。医者であり外科医である以上、ある程度のことはこなさなければいけないけれど、かといって全部できるわけじゃない。自分の決めたものを突き詰めて、世界の誰にも負けないぐらいのものが何か一つあると強いですね。

**松波** 林さんのお話では、「お前の付加価値は何だ」ということと、「サムシング・ディファレント」ということがあったわけですが、河合さんの話は、オールマイティーよりもスペシャリティーを選べということ

と。スペシャリティーがあつてこそ、自分が世界に通用する。アメリカで生き残れるということですね。



河合 達郎  
(ハーバード大学医学部教授)

**河合** そういうことです。一人の人間が全てをこなすのは無理です。東京女子医科大学の時の恩師に一度お叱りを受けたことがあります、とにかく一つのことを錐を揉むようにやれと言われました。水中でもがいている時は息がでなくて苦しいけれど、浮上した時は本当に気持ちがいい。それから自分の領域を広げていけば良いと教えられました。そういう気持ちでやらないと、自分のスペシャリティーは作れず、外国にいても居場所はありません。

**松波** ちょっと解説しますと、河合さんも僕も移植外科をやっています。他人の臓器をもらう時、普通は免疫抑制剤を使いますが、それを使わなくても移植が成立する「トランス」(寛容)を誘導することがサルでは成功しています。それを人間に適用することも既に始まっています、非常に新しく価値のあることで、彼は世界の第一人者なのです。彼言うスペシャリティーとは、人間の臓器移植におけるトランスは自分しかできないということ、本当にすばらしいことです。同じ外科医として尊敬しています。

**櫻井** 私の場合、就職に当たって別に世界に打って出ようという気持ちはなかったのですが、お国のためにということと防衛庁(現・防衛省)を選んで就職しました。当時の自衛隊は、どちらかというと内に籠っていましたが、就職した一九七九年にソ連軍がアフガニスタンに侵攻し、一九八三年には大韓航空機がサハリン沖でソ連機に撃墜される事件が起きました。当時は冷戦時代で、日本一国では立ち行かない。同盟国であるアメリカと協力しながら仲良くやるが必要で、自分が内に籠ってはいけません。守れないということに私はやっとなりました。

英語は不可欠だと考え、少しずつ勉強してました。その後、湾岸戦争があり、戦後に日本もペルシャ湾に掃海艇を派遣しました。一九九二年には国際平和協力法が制定され、カンボジアに施設部隊を派遣しました。自衛隊も世界の平和に協力するために国際化していったわけです。

日本なりの貢献の仕方となると、オンリーワンとは言わなくとも、後方支援など、きめの細かい部分で技術やノウハウを生かして平和構築のために貢献する、日本ならではの活躍をする、そういうことに携わってきたわけです。そうした流れの中にあつて私は、部隊を管理する部門にいました。

河合さんや松波さんの場合は正にスペシャリスト、自分ならではの何かですが、自衛隊でならなくては考えた場合、個人を組織に置き換えると、隊員がスペシャリストなのです。彼らに対して適切な装備品や人事を考える上で、自分はいろんなことを知っていなければならぬ、すなわちジェネラリストでなくてはならなかったわけです。その意味では、理

系の方とは違う舞いになつてくると思います。

防衛では情報が非常に重要で、アメリカを始め世界各国と情報や意見を交換しながら政策立案や部隊運用を進めます。日本の地理的な位置、地政学的な利点を生かして、日本ならではの情報を集めることもあるわけで、きめ細かさが大事だと思っています。

五八歳になって、人生で初めてヨルダンという国でしたが外国で生活し仕事するという立場を与えられて海外へ出ました。難民などでいろいろ苦労している国を助けるといふ意味では、そこでも日本ならではのものが出てきます。欧米のやり方にはやや押し付けがましいところがあるようですが、日本は見返りを直接期待せず、困っているところを助けるという形でいきますから、非常に受け入れられやすいのです。外務省の活動もJICA（国際協力機構）の活動も自衛隊も同じなんです。権柄けんがら尽くでない、日本人の歴史と文化に支えられた押し付けがましくないやり方が受け入れられています。先ほどトランスという言葉が出ましたが、日本人が寛容で誰にもすんなりと受け入れられるという意味では、医者の仕事も役所の仕事もトランスがどれだけうまくいくかが大事なところで、同じ言葉が聞けたと思いました。

**松波** 確かに理系と文系の立場では違う面もありますが、櫻井さんが言われるジェネラリストになるべきだということ、なるほどその通りだと思います。

これまで三人のお話をうかがって、世界でやっていくために自分をいかに主張するか、存在を認めてもらうかということが大事で、櫻井さんの場合は、自分の省庁、部下、組織がいかに世界に認められる

かということになると思います。

## 海外で上手うまくやっていくには

**松波** 次に、自分が海外で認められたとして、いかにそこで上手に仕事を進めるかをテーマにしたいと思います。

自分が評価されたとしても、必ずしもそこで上手くいくわけではありませんよね。皆さんの場合は、世界で受け入れられて成功しているわけです。そこで上手くやっていくコツとか努力とか苦労とかについてうかがいます。

**林** 当然のこととして銀行は、世界中の金融機関と競争しているわけです。日本の銀行はほとんど現地マーケットや非日系のお客様に入っていくことによつて、日本のお客様以外にも地元の銀行や世界で活躍する銀行と競争して存在価値を認めてもらわなければなりません。

香港で副支店長だった時、個人としてのサムシング・ディファレントだけでなく、組織として銀行として何が他行と違うかを認めてもらおうとして努めたことは、相手企業にとつて経営戦略、成長戦略でどう役に立てるかということでした。その点で日本はすばらしいところがあつて、みずほ銀行のお客様には、日本中の上場企業の八割に加えて中小企業のお客様もおられます。日本企業ともつと提携したい、日本の技術を導入したい、ノウハウを入れたい。デジタルの面での新たな展開に際して、相手企業の経営戦略、成長戦略について対話する。経営戦略をこ

に入ったらどうかという提案をどんどんしました。

香港の華僑や財閥トップはものすごくお金持ちで、「銀行です」と言つて行くと、初めは挨拶してくれますが、以後は表敬で行つても会つてくれません。あなたの銀行の付加価値は何か、何をもつてくれるかが問われます。そこで、こちらがそういう面にこだわつて話していくと、財閥トップは膝を乗り出してきます。儲け話は何か、自分の経営戦略にとつて何が良いのかを聞いてくるのです。他行と違うという差別化、例えばゴールドマンサックスと戦うだけではなくて、相手の成長戦略に関する提言を懸命に目指すことによつて差別化していく。そこで受け入れられるのです。それが最後にはファイナンスなりビジネスにつながっていくわけです。急がば回れというか、そうした環境を築き上げないといけない。昔の邦銀は、何かをやるたびに後から入つてきて、シンジケートローンでお金だけ出すと、ある日突然破産するとか、失敗の連続でした。経営家とすれば、正にトップどうしの会話をしているので、この会社は大丈夫か、この経営者は大丈夫か、膝詰めで会話できると、先のこと判断できます。

モデルを変えるという点で行内でも相当改革をしましたし、相手から見ても「あ、珍しいね。邦銀の中で」となつて、地元の銀行だったりシティーバンクやゴールドマンサックスとは違うね、ということになります。そうしたみずほ銀行やかつての富士銀行には、日本のお客様、アジアのお客様と様々な成長を含めたビジネスマッチングだったり、こういう付加価値があるということでも認めてもらつてきたというわけです。

**松波** つまり、僕の素人的理解で言うと、例えば金利をより安くして売り込むのではなく、相手の会社にとって自分たちを選んでもらえばより相手が成長するということに視点をもち、そういうふうな戦略を変えたわけですね。それによって例えばゴールドマンサックスや他の金融機関よりも信頼とトップどうしの良い人間関係ができて良い契約が結べる、時間はかかるかもしれないけれど、将来のお互いの利益につながるということですね。

**林** みずほ銀行は今、アメリカでのシンジケートローンで六番目に入っていますし、海外における収益の七割が非日系の取引先です。

**松波** なるほど、相手に浸透し信頼を得られた結果だというわけですね。河合さんは、海外でのポストにおいて周りにどう受け入れてもらいましたか？

**河合** 一般社会にあてはまるかどうかは分かりませんが、私の場合、仕事が臨床と研究に分かれています。先ず臨床では一人一人の患者さんに誠意をもって接するしかないし、それで良い結果を出していくしかない。とにかく責任をもってやるしかないのです。

**松波** 日本の医師もアメリカの医師も、臨床医としては同じということですか？

**河合** 結局は同じです。アメリカの患者さんもミスコミュニケーションというのが一番まずいので、やることを全部理解してもらわないといけないし、生死に関わることもかなり多いので、それを本当に理解してもらっているか絶えず気にかけています。患者さんに訴えられたらおしまいですから。幸いなことに、二〇年やっついていて訴えられたことはないです。

とにかく一人一人に誠心誠意を尽くすしかないですよね。

研究の方は資金がなくなったらできないので、何としても研究費を確保し続ける。そのためには研究結果を必ず論文として出さないとはいけません。いろんな人と話しながら共同したり、とにかく一つのことをやり抜くことができないと、結局お金がなくなつた時点で自分の好きなことができなくなります。これは絶えずストレスです。

それから、人間関係に関して重要なことですが、とにかく喧嘩しないことです。喧嘩したら駄目です。日本人は結構喧嘩するんですよね。派閥どうしとどこか。アメリカでは、派閥が無いので、敵対する人でもうまく利用したり、考え方によっては共同研究できたりすることもあるので、うまく考えながら、決定的な人間関係の破綻に陥らないというのも重要なことだと思います。

**松波** つまり、臨床においては信頼、研究においてはいかに自分をアピールしていくか。論文を書くことで情報発信しながら敵を作らず良いコミュニケーションをとるということですね。櫻井さんの場合はどうですか？

**櫻井** お二人のお話と共通することですが、外国にいても国内にいても家庭内でも、相手の気持ちをよく聞いて理解する、相手の立場も理解する。それは言うことを聞くということではなく、先ずは理解することです。十分に理解した上で一緒に考える。それでお互いの一致点、といつても全面的に一致することはあり得ないから、なるべく広めに一致点を見出して、その一致点を少しでも拡大するように議論

を続けていくというのが、外国人との関係でも非常に重要だと思います。



櫻井 修一  
(前ヨルダン駐劄特命全權大使)

外交官の経験から特に思うことは、欧米の人でもASEANの人でも、僕の英語が上手でなかったというのもあるかもしれませんが、外国の人はもう、よくしゃべるんですよ。三分の一で済む内容を三倍にして延々としゃべるんです。僕の方は一生懸命聞いて、大体みんながしゃべり終わった頃にボソツと言う。すると、普段は黙っている奴がしゃべるわけですから、その一言が非常に重みをもつ。そういう点で得をしたかなという気持ちはあります。ただ、いつも黙っていると、「こいつ、分かっているのか？」ということになります。沈黙は金、相手は銀だと思つて、先ずは聞いていました。米軍との交渉でもそうだったし、石油部にいた時にASEANの石油政策の宣伝でもそうだったけど、押し付けるのではなく、先ず彼らが何で困っているかを聞いて、それからこういうことができますよ、どうですかと提案する。それは外国でも妻としゃべる時でも同じかなと思います。(二回 笑)

**松波** すばらしいです。常に相手の立場に立つということですね。三人とも立場が違いますし、対象も



松波 英寿  
(松波総合病院理事長)

違いますが、相手の立場に立つということですね。非常に重要なことだと思います。

大きな会社や国、医者が一番小さい個人と個人の関係がほとんどですけど、いかに相手の立場に共感するかという形で、結局はKYがどうかということになります。国であろうが企業であろうが個人であろうが、どれも同じことで、大事なポイントかもしれません。

### 異文化への対応

**松波** ここでちょっと視点を変えましょう。私たちは皆日本人ですから、日本の歴史を知り、日本人としての教養や礼を身に付けています。しかし、私たちのコンセンサスが外国では通用しないこともあるし、良かれと思ったことが相手に失礼に当たるとか。あるいは、彼らが発信しているメッセージやサインが読めないことがあるかもしれません。言い換えると、宗教、歴史背景、慣習などをいかに理解するかという話でもあると思います。そうした点で林さんはいかがでしょうか。赴任先の外国で全然違うと思いますが。

**林** 本当は、自分自身が世界の文明の歴史や宗教についてもっとしっかりと教養を身に付けるべきなんでしょう。しかし残念ながらそこまでの知識はなかったです。先ほど河合さんから喧嘩したら駄目だという話がありました。一方で彼らは平気でディベートするんですよ。いろんな議論をして、結論なりコンセンサスなりができたらしつかり従う。先ず自分の意見をしっかりと言う、相手の立場をしつかり聞き出すと同時に自分の意見を言う、相手の文化、相手の立場と背景をしつかり聞き、ディベートしながら最後はコンセンサスをしつかりまとめあげる。その能力はさすがというべきで、彼らは小さい時からの教育で慣れていることもあって、すごく上手いと思います。

**松波** ディベートの教室が小学校にもありますね。**林** はい。そういう意味では、外国をより深く知るためには、文化にも歴史にも、美術館へ行けば絵画一枚にも例えば聖書の物語があるわけです。それを分かった上で見ると、単にきれいだ、すばらしいというだけで見るとでは、重みが違います。そこはこれから努力を要する課題です。

**松波** そういうことで苦労したり失敗したりしたことはありますか？

**林** 例えば、会議後に会食するときいろいろな話ができますが、さすがに日本人にそこまで求めてくるということにはなかったです。でも彼らどうして話している時、アメリカ人はあまり気にしません。ヨーロッパの人は教養や素養が一つのバックボーンになっているわけです。彼らはそれを常識としてもっていますね。

**松波** そう言えば、西洋人の名前には聖書に由来するものが多いですね。ヨハン、ピーター、マリアなどもそうですし、ヨーロッパ文明にはキリスト教やギリシャ文明が影響していますね。

河合さんの場合はどうですか？ 特に患者さんと個人的に向き合う場合に宗教的、文化的な背景に関して困ったことや配慮が必要だと思ったことはありますか？

**河合** アメリカにはキリスト教徒が多いですが、多民族、多宗教の国でもあります。しかし、人によって接し方を変えらなければならない。むしろ非常にデリケートなので、どちらかというと触れないようにしています。



日本人は明確な宗教をもっていませんが、外国では結構、評判がよいんですよ。アメリカでもフランスでも評判が良い。どうして宗教がはつきりしないのに評判がいいかというと、日本人はあまりガツガツしてなくて、節度があって、一つのことを一生懸

命にやる。一番の美德として、見返りを求めることなく一生懸命にやるというところがどの日本人にも結構あるんですよ。長年にわたって培われた日本人固有のこうした道徳観が共通にあつて、それを世界中の人が理解しているのだと思います。だから非常にやりやすいです。日本人であることはメリットですね。

**松波** 同じ東洋人どうしても日本人は受容的ということですか？

**河合** そういうこともあります。中国人は謙遜なことでなく積極的に出てくる人が多い。どうしてかなと思いますが、例えば日本人の道徳の基になっている儒教など、今の中国ではどうなっているのでしょうか。中国人は現実的な部分で前面に出てきているように思います。日本人とかなり違うところですね。

**松波** 日本人は非常に評価が高いということですね。  
**河合** そうです。戦後、日本人が海外へ出てそれぞれの所に根を下ろして努力してきたおかげだと思います。そういったことが理解されつつあると思います。

**松波** 今、河合さんが言った日本人の道徳や宗教観、仏教もそうですし、儒教、特に朱子学の影響も大きいですね。江戸時代の水戸学は朱子学の一つですし、現代にも影響が残っていると思います。その発信元である中国はどうなのでしょう。私は中国人の教授も知っていますが、確かに儒教が今の中国ではどうなっているのかなと感じます。ほとんどの中国人に儒教を学んだ人だという印象はもちません。文化大

革命の影響かと思いますが。

櫻井さんはある時期、日本を代表して外国に行かれたわけですが、道徳や宗教といった問題はどのようにうかが。ヨルダンも宗教的には非常に難しい地域ですよ。

**櫻井** はい。ヨルダンは九二、三%がスンニ派イスラム教徒で、約七%がキリスト教徒の国です。元々はユダヤ教も含めて皆が仲良く暮らしていました。が、百年ほど前から動きがあつて、第二次大戦後にイスラエルが建国されたわけです。彼らと付き合う上では独特のタブーがあるので、それには触れないようにしていました。

**松波** それを知っておかないといけないわけですね。

**櫻井** ヨーロッパや中東では、長い歴史の中で、教や民族が複雑に絡み合つて数多くの戦いをして、征服・被征服を繰り返してきました。様々な国の人たちがいる場では、基本的には相手が嫌がるような話題には触れません。向こうから話題にしてくれば話してもいいでしょうけれど。

それから食べ物のタブーもあります。家に招待した外国の方がベジタリアンだから肉は食べないとか、豚肉は食べないとか、牛肉は食べないとか、生魚はだめだとか、いろんな人がいるので、事前に確認します。いろいろな理由があるので、それを理解しながら付き合うことが大事なことですよ。タブーではないけど、食物アレルギーの確認も大事ですよ。

ヨルダンには日本を大好きな人が結構いて、富裕層はしょっちゅう日本に來たりしています。東京は

きれいな街でゴミ一つ無いと言います。日本では、掃除や食事の後片付けは基本的に日本人がします。アラブ諸国では、出稼ぎのエジプト人やフィリピン人が行うことが多いです。ゴミを捨てないと彼らの仕事が悪くなると言う人もいます。階層があります。日本の社会はフラットですよ。一部の超富裕層を除けば、アメリカ、欧米、アラブ諸国と比べて所得格差は小さい。その意味で、日本人はできることは自分でするんだと、なるべく話すようにしていました。

**松波** 日本には外国のような明確な階層がないということですね？

**櫻井** はい。それから、日本製品は壊れない、長持ちする。こんなに長持ちする物を作ったら次が売れないじゃないかと心配してくれる人もいます。ある時タクシーに乗ったら、ポロポロのサニーでした。運転手が拙い英語で日本人か？と聞いてきたので、そうだと答えると、このサニーには一六年乗っているが一向に壊れないと言われました。日本製品への信頼、憧れが非常に大きいのです。最近、エジプトやサウジアラビアで日本の小学校教育にならつて教室の後片付けを取り入れています。日本の幼稚園教育を学びたいという気持ちも強くなっているようです。

**松波** 今のお話では、日本では放課後に子どもが教室を掃除することは当たり前ですが、海外では必ずしも当たり前ではないということですね？

**櫻井** そうです。そんなことをしたら、うちの子を酷使するとか虐待だと受け取られかねない文化です。日本にいたのでは絶対に分からないことです。

それから、日本人は多神教ですよ。熱心な信者もおられますが、多くの人は宗教に寛容です。キリスト教徒もユダヤ教徒も否定はしません。同じ神様のはずなのに、彼らはちよつとした考えの違いから争い事どころか戦争にさえなるわけで、日本人は一神教の人たちとは宗教観が全然違います。それが理解し合えることにもつながっているのではないかと思います。

## 日本のポジションを考える

**林** 私には、日本がどう見られているか、そして、本当に今のままでいいのか、という問題意識があります。国際会議やビジネスで毎月のように海外に出張しますが、確かにみんな日本はすばらしい国だと言います。今、インバウンド（外国人旅行者の自国への誘致）の増加がすごいですし、行きたい国のナンバーワンです。すごく嬉しいことです。公害や汚染もないし、食べ物も酒もおいしいし、こんな快適な国はないです。日本人は寛容で相手の立場に立つから、リスペクトされている。そういう意味で、日本と日本人に対する評価は高い。

でもその一方で、日本の存在感はどんどん落ちてきています。逆に、中国の存在感はどんどん大きくなっていて、今や中国は国としても個人としてもすごく自信をつけてきています。圧倒的な存在感が市場においても政治においても経済においても出ていて、国の指導者がそれを推進しています。昨年一月に習近平さんと話す機会があり、李克強首相とも話しましたが、国の改革としての一帯一路、デジタ

ルを中心とするイノベーションによって中国は大きく変わりつつあります。そして圧倒的な市場の大きさから世界中が中国語でをするわけです。中国人が好きかと聞かれてクエスチョンマークであっても、経済の大きさに吸い寄せられている。

日本の生き方として、中国のように経済で発展しなくても、国として国民としてリスペクトされれば良いという考え方もあります。しかし、このままでは日本の今の繁栄、生活、経済を維持できるかがとても不安です。中国人のようになれとは言わないけれど、日本も国のビジョンを訴えていかないといいません。その良い例が、地球温暖化のパリ協定です。元々京都議定書では日本が議長国だったわけですが、その後の政権のゴタゴタの中で、あれだけ公害を出している中国が今やパリ協定を守るべきだと言っている。それから今グローバル経済の枠組みでは、トランプ大統領は「アメリカ・ファースト」としか言わないですが、中国の習近平は地域経済統合が大事だと言っています。中国はこれを断固としてやると。それを一帯一路としてやりながら、国のビジョンと個人個人、企業も含めてインタレストが完全に表裏一体となり、それでビジネスを押し進めている。



林 信秀  
(みずほ銀行取締役会長)

それからデジタル化がすごい勢いで進んでいます。今や中国では現金を使いません。マクドナルドやスターバックスの店で現金を受け付けてくれないのです。アリペイ（支付宝）かウィチャットペイ（微信支付）。上海で食事に小銭を渡そうとしたら、「ノーノー、このQRコードに仮想通貨を振り込んで」と言われたという話があるくらいです。（一同 笑）

それが中国の現実です。それぐらい中国が変わってきていて、一四億の民のうち、ウィチャットペイ、テンセント（騰訊）の利用者が七億人です。この七億人がスタンダードになると、グローバル化していくわけです。日本のスイカ（Suica）やフェリカ（FeliCa）は特殊なんです。日本では便利でも、海外へ持っていくって使えない。世界でどう戦うか、ある程度ゲームプランを考えてやらないと、日本はいい国、日本人はいい人と言われ、個人個人を見ればすごく頑張っていて尊敬されているけれど、国全体として見た時にはどうなのか。もう一度官民挙げてゲームプランを練り直さないと、五年後、一〇年後がすごく不安なのです。

**松波** すばらしいご指摘をありがとうございます。今日の対談には若い人たちに向けてメッセージを発信するという意味もありますが、個人の評価と国の評価は全く違うわけですね。

日本のGDPが世界で二位から三位へ落ちたのはもう八年前のことで、今では中国の半分以下です。アメリカと中国が増えて日本はドンと下がっていますし、世界における発言力もどんどん下がってきています。林さんは日中経済協会の副会長もされていますが、そういう立場だからその発言だと思いま

す。日本は官民挙げてやらなければいけない。でもやっぱり個人の魅力は磨かないといけないですね。そういう意味では間違っていないと思うんですが、これは国のスタンスの問題でしょうか？

**林** いや、安倍政権はすぐ頑張っていて、アベノミクスで国を改革しているのですが、規模感といい変化の速さといい、デジタルを中心とした国のモデルの在り方の違いがかなりあります。経済産業省が枠組みを変えて一生懸命支え、安倍政権が旗を振っていますが、スピード感において中国とは断然違います。

**櫻井** 日本は、国際協力の場などでも意思決定までに時間がかかり、決定後も時間がかかります。いざ始めれば着実にきちんとやるので日本はずばらしいということになります。ちょっと時間がかかり過ぎです。それに比べて中国はサッと来てサッとやっついていく。安かろう悪かろうかもしれないが、パッとやっつけてしまうわけですよ。スピード感という点で日本は堅実というか…

**林** 皆がサラリーマン化してしまっているんですよ。例えばミャンマーのティラワー工業団地などでも、日本企業にもっと出てくさいと言って五〇〇社ぐらい紹介しました。日本企業は、一旦決めればきちんとやるんだけど、決定までに時間がかかる。何と言われているかというところ、NATO（ノースアトランティック条約機構）ですよ。（一同 爆笑）  
そういう評判が立つとまずいですね。僕自身も反省しています。日本人はリスクを取ることにごく臆病です。学校ももっとリスクを取れと言いたい。いろんな可能性を自分の手で掴むんだという教育を

しないといけないのに、機会平等ではなくて「結果平等」になっている。運動会で手をつないで一緒にゴールしましょうというような…。海外では競争は当たり前なんだから、家庭教育を含めて教育から変えていかないと、中国人を相手に戦うのはなかなか大変だと思いますね。

**松波** 今、世界における日本のポジションをどう考えるかという話になっていますが、河合さんはどうですか？

**河合** 林さんの危惧に同感します。日本人の欠点はコミュニケーションが下手なこと。何かを主張できないし、コミュニケーションでも億劫なところがあります。

この二年ほど、岐阜高校の生徒が三〇人ぐらいずつ短期間アメリカに研修に来ています。昨年二月、ある日の午前中にハーバード大生二〇人ほどとワークショップを行いました。その最後に生徒がお礼を言う場面。三〇人もいるのに一人として「ありがとう」の言葉がないんです。ショックでした。

感謝の気持ちが伝えられないと何も進みません。そのうち、一人だけようやく「サンキュー、サンキュー」と勇気を出して前に出てきました。「サンキュー」しか言えなくても、その生徒は立派です。他の生徒は、臆病の余りか感謝の気持ちさえ伝えられなかったのです。せっかく大学生が忙しい中をボランティアで来てくれてるのに、岐阜高校のかわりできる生徒がこんなことでは困るなと思いました。  
中国人だったら、同じ場面でもかなりコミュニケーションできていくでしょう。アメリカの大学には中国人の学生や研究者も来ますが、みんなかなりコ

ミュニケーションが取れるんです。どういう訳か、中国の学生はアメリカの名前もつけています。英語を学び始める時にアメリカの名前を付けているのかな。そのこともあってコミュニケーションに入りやすいのかもしれない。英語教育の取組みも国によって違うように思います。

とは言え、自分が高校生の時のことを思えば、同じ場面で感謝の言葉が言えたかどうかは分かりません。しかし、しゃべれなくても気持ちを伝えるということに臆病だというのは、他国の人々の積極性と比べて問題だし、人間としてもっと成長しなければいけないと思います。

**松波** 我々の高校生時代の英語は、「山貞」（山崎貞著『新々英文解釈研究』、研究社）と「親単」（赤尾好夫著『英語単語熟語の総合的研究』、旺文社）でした。さすがに今は違うでしょうけれども。（スナップ 現在はどれも使っていません）

**櫻井** でも、山貞の構文を使って外国人に「Incarnation of appetite」（食欲の権化）って言ったらすくく受けましたよ。（一同 笑）

**松波** よくそんな古い言葉を覚えていましたね。今のお話は、要するに自己を主張する上で、引込み思案な日本人の性格もあるでしょうし、国自体もそうかもしれない。国は変わろうとしているものの今一つだというのが、中国に大きく引き離されている原因かもしれませんね。もっと日本の主張が世界に通じるようにしていかないと。

**櫻井** 英語については、国は英会話を何とかしようとしていますが、日本では使う場面がないですね。二〇二〇年のオリンピック開催を控えて、例えば

レストランなどでも対応しようとしているようですが、単語をたくさん覚えても、それをどう並べてどういう場面で使うと適切かということに慣れていないから、尻込みしてしまう。

「X」を付けられることをすごく恐れますよね。外国では、英語にすごい訛りがあったり、英語圏の人でも耳障りで聞きづらかったりすることがあります。それでも堂々とやっている。ヨルダンでは、英語が聞き取りやすいのはヨルダン人、オランダ人、ドイツ人でした。英語が母国語や公用語の人の英語は、聞くのが大変でした。英語が下手でも発音が正確でもいいので、慣れておくこと。若いうちから聞き慣れておく、しゃべり慣れておくことが重要です。「ありがとう」に「…してくれて」というぐらゐの言葉を添えて、とにかく口に出してみることで。語学は、度胸がないとなかなか上達しません。

**松波** 今のお話をまとめますと、要するに個人としての日本人の存在と国としての問題において、それぞれ問題があるということですね。その半面、日本人の美徳ではあるけれど、それが特に国家として世界に向かっていく上では足枷になっている。英語の問題を含めてそうだといいことですね。

## 若い人たちへのメッセージ

**松波** そろそろまとめに入ります。今日のディスカッションを通じて、それぞれの方が世界へ出ていろいろな問題や困難を克服・解決され、業績を出されたことをうかがいました。

ここにいる私たちは、岐阜高校の在校生や卒業し

て間もない若い卒業生にとって、私たちの体験が何らかの刺激となればという思いでいます。そこで、若い人たちに何を望むかについて一言ずつお話しただきたいと思います。

**林** 僕が高校生の頃は、将来何がやりたいかではなくて、どうやって大学へ入るかを考えていました。しかし今は、目的意識が全然違っていて、何をやるためにどの大学に行き、大学へ入っても卒業せずに起業家になるとか、アップル社のスティーブ・ジョブズのような人が始めています。銀行としても、様々なイノベーション企業、スタートアップ企業を応援していますが、今の若い人たちは、いい大学に入っている会社に入ることがゴールと思っている人がまだ大半とはいえ、そうでない人もどんどん出てきています。彼らは、世界を視野に起業しよう、日本を変えようとしています。

日本だけを見ると、規制やルールがあり、大企業や霞が関とか政治とかいろんな枠組みがあつて壁を破れずにいますが、デジタルの分野などでは全く違う世界が眼前にあると意識し始めていて、そういう意味で大きな変化が始まっています。岐阜県の人々もそうです。自分として人生の中でどんなこと、新しいことをやっていくのか。自分が何をやりたいかを絶えず見つめ直すことがすごく大事です。

従来型のサラリーマンにとって、転勤は人事部から発令されるものでしたが、これからは違うと思います。当行で今懸命に推進しているのが、お前の強みは何かを意識させ、その強みを伸ばす人事制度の枠組みを作ることです。自分の強みはこれですと言

会社に入ろうが個人で勝負しようが、同じだと思いません。

河合さんが言われたように、みんなそれぞれ個人としての強みをもっています。そういうふうになんが変わっていかないと、多分日本は変わらなと思っています。でも、それが今確実に変わろうとしている。東大を出ても、いわゆるいい会社や公務員試験を受けない人、即起業家になる人が増えています。二〇代で一旦会社を上場させ、新しい会社を作つてまた上場させ、今度は何十億という資金でファンド投資家になつて、また日本のスタートアップ企業を応援するという人が三〇代で出てきています。明らかに変わってきています。

例えばドローン。日本は規制緩和が最も進んでいる国になりつつあります。以前に首相官邸にドローンが落ちましたね。あれで大変だ！ということになつてルール化された。(一同 笑)すると、規制が始まったことでこの分野でビジネスができそうだととなり、ドローン向けの特別ファンドも立ち上がった。物を作るだけなら中国が強いが、ドローンを使ってどうビジネスするかを日本が進める。この類の可能性はどんどん出てくるでしょう。僕自身、まだリタイアする年齢ではないと思っています。我々自身がいろいろなことに挑戦することを絶えず意識しないといけないと思います。ぜひ若い皆さんにもお願いしたいことです。

**松波** 常に目的意識をもって挑戦し続け、自分を磨けということですね。河合さんはどうですか？

**河合** ちょっと難しいですね。最近の日本人の若者を見ていないので。(一同 笑)

これからは不確定な要素が非常に多くて、これま  
でのようにいい大学、いい会社に入ってそれで一生  
おしまいというようなコースはあり得ないのに、親  
はそれしか知らないで、我が子を安定したコース  
に進ませようとする。しかし、親の言うことは無視  
してでも、とにかく自分で決める。自分の信じる  
道ができれば、それを突き進む勇氣をもって、日本  
にいってもいいし、外国でしかできないことなら外国  
へ行ってもいい。国境を越えて自分のやりたいこと  
を追求するという若者になってもらいたいと思いま  
す。

**櫻井** 自分は高校時代、勉強してればいいやとい  
くらしいの考えしかなくて、別に将来どうしたいとい  
うことがなかったですから、偉そうなことは言えま  
せん。



ヨルダンに海外青年協力隊員が五〇人ぐらい来て  
います。彼らは大半が二〇代で、女性が六割です。一、  
二年で入れ替わりますが、私は、彼らが来た時と帰

る時には必ず会って話すことにしていました。なぜ  
ヨルダンに来たか、いつヨルダンに来たいと思っ  
たかを聞くと、半分ほどの人は学生時代に留学やパッ  
クツアーで外国に行き、こういう国があるから何  
とかしようと思ったとか、本で読んだり親戚にそう  
いう人がいて触発されたとか言います。残り半分の  
人は、就職してからやっぱり外国の人たちにもこう  
いうことを教えてあげたいという先生や技術をもっ  
た人です。

半分は海外で働きたいという人ですが、半分は何  
をしたらいいかわからないし考えていなかった。成  
り行き任せという人もいます。それはそれでいいと思  
います。ただ、僕らの若い頃は、外国にはなかなか  
行けなかったですよ、高く。今は比較的容易に  
行けますから、実地に行ってもいいし、本を読んで  
もインターネットでもいろんなツールがありますか  
ら、外国の雰囲気になれることができます。日本以  
外のを若いうちに見聞きしておいた方が、多分  
将来何をやるにしても糧になると思います。

これからの若い人たちには、河合さんが言われた  
ように、世界へ打って出ることが増えるし、そうい  
うことが求められます。地元に残ろうが何処にいよ  
うが、もう国際化とは無縁でいられない世の中なの  
で、とにかく見聞や見識だけではなく、それらをな  
るべく早い段階で吸収してほしいです。受験勉強の  
合間にも、日本人らしいものの考え方や歴史を、  
学校の勉強にプラスして身に付ける時間を作っても  
らえたらと思います。

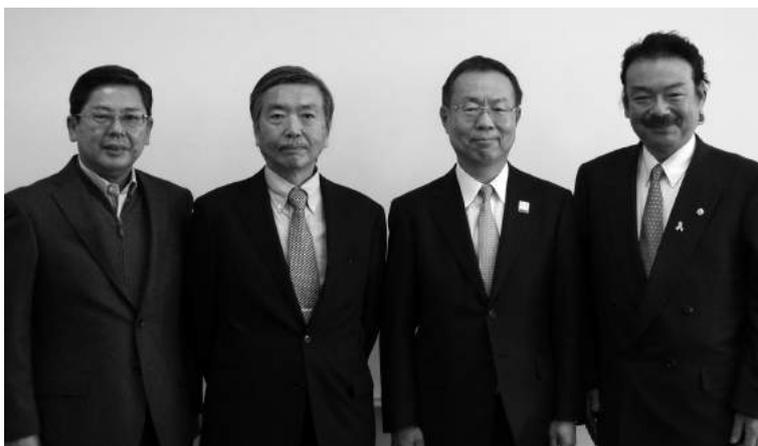
それから英語です。僕らの頃はカセットテープの  
リングフォンしかなく、高価で手の届くようなもの

ではありませんでした。でも今はタダでも英語を聞  
き流すことができるし、自分の英語が通じるかど  
うかは携帯電話に向かってしゃべれば分かります。  
時々練習してもらって、英語が口をついて出るよう  
な癖をつけてほしいです。受験の役にも立つわけ  
ですから。それも含めて若い皆さんには頑張っ  
てほしいと思います。あとは健康管理です。病気になる  
ら何にもならない。

**松波** ありがとうございます。今日は、この四人  
が若い岐高生、卒業生に対するメッセージとしてい  
るいろんなことを話しました。共通するのは目的意識  
や自分の考え方。もう一つはリスクを恐れず立ち向  
かうことです。この二つが成功者としてのエッセ  
ンス、キーワードであると思います。

林さんの言葉によると「破壊的創造」が始まって  
いる時代なんですね。国家間でも、通信技術でもそ  
うでしょう。しかしそれゆえに若い人にはチャンス  
があるということです。そのチャンスに向かって頑  
張ってほしい。校歌にもありますように、「百折不撓」  
と「国家のために明け暮れ学ぶ」。我々はこれが頭  
の中に刷り込まれているわけですから、これを具現  
化してもらえたらと思います。

今日はどうもありがとうございました。  
**全員** ありがとうございます。



座談会後に  
左から 村瀬幸雄（運営委員長）、櫻井修一、林 信秀、松波英寿（敬称略）

## 出席者のプロフィールと近況

### 河合達郎 ■ かわい・たつお

岐阜高校では、柔道部顧問の渥美茂四郎先生、佐光義民校長に影響を受けた。1975年に日本大学医学部に入學し、竹内 正(病理学) など多数の教授に大きな影響を受けた。また、当時米国から帰国して教官になっていた黒須康彦(外科)、原田研介(小児心臓)などの影響も受け、米国医学に憧れを抱くようになる。このため四年生からはメジャーな教科書は英語のものに変え、卒業までに米国国家試験(ECFMG)にも合格した。しかし、残念ながら当時のビザの制限から渡米は叶わなかった。

大学卒業後は外科を選択したが、基礎医学的な興味をどうしても捨てられず、外科学と免疫学の両方が必要となる移植外科を志した。そこで、当時最も多くの腎移植を手がけていた太田和夫教授の主宰する東京女子医科大学腎臓病総合医療センター外科(第三外科)に入局した。太田教授からもいろいろ学んだが、最も影響を受けたのは先生の生き様であった。これについては、『日経メディカル』<http://backnumber.kurufunet.jp/article/42294462.html> に詳しいので参照されたい。

10年間の臨床研修を終えたところで、1991年にハーバード大学関連のマサチューセッツ総合病院(MGH) 移植外科(Prof. A.B.Cosmi) にリサーチフェローとして留学し、留学中に世界で初めてサルで腎移植の免疫寛容誘導(免疫抑制なしで移植臓器を生着させること)に成功した。1994年に帰国し、臨床と研究を続けて1996年に東京女子医科大学第三外科准教授となったが、日本で免疫寛容のための臨床治験を実現することに困難を感じ始めていた。このため1997年4月、MGH移植外科、ハーバード大学医学部助教として再渡米した。研究の傍ら、米国での臨床のために米国医師国家試験(USMLE)を再度受験して合格し、2000年よりMGHの臨床スタッフにもなった。2001年に腎移植の免疫寛容のための臨床治験を始め、世界で初めて人間で免疫寛容の誘導に成功した。(Kawai T, et al. N Engl J Med 2008; 358:353) 2008年ハーバード大学医学部准教授、2012年 A. B. Cosimi Endowed Chair、2015年より現職。  
(座談会には、TV会議で参加していただきました)

### 櫻井修一 ■ さくらい・しゅういち

昭和 50年に東京大学文科第一類に進学し、昭和53年国家公務員上級甲法律職合格、昭和54年法学部を卒業。同年防衛庁に入庁。平成25年内閣官房副長官補(安全保障・危機管理担当)を最後に退職し、東京海上日動火災保険㈱に勤務した後、平成26年10月にヨルダン王国駐劄特命全権大使として公職に復帰し、3年間のヨルダン大使館勤務を終えて平成 29年 12月退官。

この間、防衛庁(省)に通算23年間、大蔵省主計局、資源エネルギー庁石油備蓄課長、長崎県警察本部長として勤務したほか、内閣官房には内閣事務官、内閣審議官、内閣官房副長官補として計5年勤務。防衛省、資源エネルギー庁、内閣官房では、安全保障政策に関係して国際関係業務にも従事した。ヨルダン駐劄特命全権大使は、初めての海外勤務・生活経験であった。

昭和 54年 4月 防衛庁入庁  
昭和 57年 4月 大蔵省主計局地方財政係に出向  
平成 3年 4月 内閣官房内閣安全保障室に出向  
平成 7年 6月 通商産業省資源エネルギー庁石油部備蓄課長  
平成 18年 7月 長崎県警察本部長  
平成 20年 8月 内閣官房内閣審議官  
平成 22年 8月 防衛省運用企画局長  
平成 23年 8月 内閣官房副長官補  
平成 25年 11月 東京海上日動火災保険㈱顧問  
平成 26年 10月 ヨルダン駐劄特命全権大使

### 林 信秀 ■ はやし・のぶひで

1957年岐阜県生まれ。1980年に東京大学経済学部を卒業後、富士銀行に入行。国際畑が長く、ニューヨークと香港に13年以上勤務した。2014年よりみずほ銀行頭取を勤め、2017年4月に取締役会長に就任。

現在は、会長として内外のお客様とのリレーション向上を図るだけでなく、対外活動にも意欲的に従事している。直近では、2017年11月にA B A C (APEC Business Advisory Council) の日本委員に安倍晋三首相から任命され就任。このほかにも、国際金融協会(IIF) 理事、日中経済協会副会長など、銀行員としての経験を活かし、国際会議への出席など様々な活動に励んでいる。

趣味は音楽鑑賞、旅行。近年は、海外に出張してもホテルと取引先の往復ばかりだが、時間ができたら、妻と世界遺産を含めたクルーズ旅行に行くのが夢。先日、川崎重工工業・各務原工場を視察し、その際にドクターヘリに試乗した。長良川沿いに母校の岐阜高校を空から眺望し、忘れられない経験となった。改めて岐阜への思いを再認識するとともに大変感動した。

### 松波英寿 ■ まつなみ・ひでとし

南開大学外科学名誉教授・客員教授(中国)  
Fleni 病院移植科客員教授(アルゼンチン)  
Lili 病院外科客員教授(コロンビア)  
岐阜大学医学部臨床教授  
朝日大学歯学部客員教授  
岐阜聖徳学園大学看護学部客員教授  
京都大学医学部非常勤講師  
名古屋市立大学医学部非常勤講師  
横浜市立大学医学部非常勤講師  
信州大学医学部委嘱講師  
羽島郡医師会会長

1981年に東京医大を卒業して外科医となり、1989年から肝臓移植で世界的に有名なオーストラリア・ブリスベンに留学しました。1990年には世界で初例の生体部分肝移植(以下、肝移植と略)が行われ、その主治医を務めました。帰国後、信州大学を経て1997年には自院で民間病院では国内初例の肝移植を行い成功させ、2000年には世界で初例の血友病の患者に対する肝移植を自院で行い成功させました。

最近では社会的医学に興味をもち、糖尿病や肥満症の新しい治療法(こいのぼりの吹き流しのようなもの(ソック)を小型化して小腸に挿入し、小腸を内貼りして、食物はソック内を通過させ、食物が小腸粘膜に接触しないようにする方法。すなわち食物が消化吸収されないようにする。胃・小腸インナーシャントソック)を提案し、東大に肥満メタボリックケア講座を開講して臨床応用を目指して研究を進めています。

さらに、在宅医療を安全に行うための機器(ナースコール付きの脈拍測定装置「いつでもウォッチ」®)を常時在宅患者に装着させ、常時送信される生体情報をかかりつけ医が監視し、異常時は訪問看護ステーションや警備会社のスタッフが在宅患者を見に行くシステムの開発を行って、国内外の特許を数多く取得しています。